

野老澤の歴史をたのしむ会

10年の歩み

■サークルの概要

●設立の経緯

平成21年「所沢飛行場100年」のグループワーク発表時の市民大学第16期所沢市史グループの有志が立ち上げたサークルで、賛同を得た23名の会員でスタート。その後も期毎の修了生の加入があり、現在46名の大きなサークルとして10年を迎えた。

●設立時の活動

活動当初の平成22年は設立に関わる問題の「討議」に多くの時間を割き自由なアイデアを出し合った。この時のディスカッションでの事項がサークルの基本姿勢となっている。

◇会の目的

「所沢市史の多面的な学びを通して、人との交流を深め、たのしくわが町の歴史とロマンに触れる」。

◇会の運営と活動目標

- ・年毎に研究テーマを決める。
- ・学びは所沢市史にウエイトを置きつつも限定せず、所沢にかかわりのある近隣地域の歴史事象や歴史事物を対象を拡大する。
- ・近現代の所沢に影響を与えた人やモノを学習する。

- ・所沢市での地産地消・食文化、現代の動きを対象とする。

- ・多面的な学びを通して会員相互の理解と親睦を図る。

●活動の主な内容

◇体験

- ・地産地消、料理実習(手打ちうどん、まゆ玉団子、里芋だんご、七草粥、飾り寿司)
- ・伝統工芸(まゆ玉飾り、ほうろく灸)

◇探訪

- ・神社仏閣を巡る(山口観音、所澤神明社、熊野神社、武蔵野33観音、狭山33観音、高麗神社、多聞院、多福寺)

- ・歴史散策(鎌倉街道、玉川上水、狭山湖、富士塚、軽便鉄道、航空公園、トトロの森)

- ◇バス旅(蕪山県・江川家、歴史の栃木、世界遺産富士山、キューピー五霞工場)

- ◇見学(養蚕農家、郷土美術館、嵐山博物館、流鏑馬、国立ハンセン病資料館、入間基地)

- ◇工場見学(サントリー府中工場、山田うどん入間工場、ロッテ狭山工場)

- ◇講義(渡辺隆喜先生、木村立彦先生による歴史講座)

- ◇懇親会(8月納涼会、12月忘年会)

- ◇その他

●目次(掲載ページ)

* 10周年にあたり	1
* 10年の歩み発行によせて	2
* 活動記録	
10年間の活動記録件数	199件
* 平成22年(2010年)	10件
* 平成23年(2011年)	21件
* 平成24年(2012年)	23件
* 平成25年(2013年)	20件
* 平成26年(2014年)	20件
* 平成27年(2015年)	19件
* 平成28年(2016年)	21件
* 平成29年(2017年)	21件
* 平成30年(2018年)	22件
* 平成31年、令和元年(2019年)	22件
* バス旅写真(平成24年〜平成29年)	43
* バス旅写真(平成30年〜令和元年)	44
* 講義・懇親会・その他。写真	44

野老澤の歴史をたのしむ会

10周年にあたり

令和2年サークル代表 大館 徹

野老澤の歴史をたのしむ会のサークルは平成22年設立から10周年を迎えた。

「所沢飛行場100年」のグループワーク発表時の市民大学第16期所沢市史グループの有志が立ち上げ、発足時（平成22年）23名の会員でスタート。現在46名の会員となっており、ところざわ倶楽部有数の会員数を誇り毎年20数回の活動を行っている。

主な活動内容としては

- ① 体験。所沢の食文化である地産地消料理やお正月の伝統行事など。
- ② 見学。史跡・文化財・博物館・美術館などの歴史の見聞。
- ③ 散策。歴史街道、寺社仏閣や所沢市域の開拓地などの歩き。
- ④ 歴史講座。渡辺隆喜先生、木村立彦先生による所沢に関する講座。
- ⑤ 総会。今期の反省と来期の計画などの話し合い。
- ⑥ 懇親会。夏は渡辺隆喜先生講義後納涼会、冬はサークル総会後忘年会を実施。

記録を辿ればもう一度歴史探訪したい場所、体験してみたい行事、聴きたい講義など参考になるものが沢山ある。

ところざわ倶楽部第13期活動方針案は「毎日元気を更新、何事も楽しんでやる、が最上級」と提案されている。

当会の会則には「所沢市史の学びをおし人との交流を深め楽しく自分の住む町の歴史ロマンに触れることを目的とする」と定めてあり、その目標が両方針に沿うものと思われる。

当会上げの初期のころは、どうしても活動に関わる担当者が特定されがちであった。

今でもその力は必要不可欠である。しかし最近は一歩進めての活動で、企画をグループ別にして調査、活動、報告に携わって、全員参加型の活動で会員一人一人が何らかの役割に携わっている。

いずれにしても皆がたのしみながら、それが知らず識らず健康増進にもつながっていくものと思われる。

年20回以上の活動を10年続けられて来たのはそれらの行動を皆で着実に前進させているからである。

私は入会して何回か活動に参加してみて、

皆さん何でもこんなに歴史探究に意欲的で元気何だろうか、一緒について行けるだろうか、などと心配したがよき先輩方々の指導に支えられ長いこと楽しんでこられている次第で、これからも継続が大事であると思われる。

時には活動のレベルアップも必要である、困った時は協力しあって全員参加で意見を出し合い活動し見聞をひろめ、目標成果の喜びを分かち合い今後10年のスタート地点としたい。

最後に、サークルの10年の活動期に、渡辺隆喜先生には明治維新史を中心に、木村立彦先生には江戸期を中心に、講義や座談会で所沢の歴史にスポットをあてていただき所沢市史への興味や関心を高められたことは両先生のご指導あつてのことと感謝に堪えません。そして、サークルを立ち上げていただいた市民大学16期所沢市史グループの、有志の方や企画委員であつた佐藤さんの探求心やサークルの基礎を作ってくれた皆様に感謝申し上げます。私たちがサークルは全員参加の活動に心がけ、たのしく学びながらこれからの10年も健康にして、なお一層の場とすることを目標としたい。

野老澤の歴史をたのしむ会

10年の歩み発行によせて



明治大学名誉教授

ところざわ倶楽部

野老澤の歴史をたのしむ会

特別会員 渡辺 隆喜

私の定年は平成20(2008)年3月である。以来10年間の私の定年史は、「野老澤の歴史をたのしむ会」の活動期に重なる。

私は大学に40年間勤務し、同時に30年来、埼玉県史、所沢市史の編纂委員でもあった。

所沢や埼玉の地域史を中心に、全国史との関関が研究課題であったのである。

このことは定年と同時に始まったロシアのオムスク大学への集中講義とかかわる一方、所沢市民大学で地域史を担当することにも連なり、「野老澤の歴史をたのしむ会」のメンバーの多くが、市民大学の卒業生で、私の知り合いであったことが縁で、その夏の講演を依頼されることになった。

講演は、所沢地域の具体的実態の究明は木村立彦氏に委ね、私は専ら地域史と全国史との関関を追求することになった。

時間的には、私の講演は古代から現代にまでおよぶ。勿論、明治維新史が中心であることは言うまでもない。なかでも中心課題は、幕末維新期の海外交流史であった。

このことは現役中の、私の海外研修とゼミのあり方と関連する。私は40代に幕末外交使節や留学生に興味をもち、調査のためアメリカとイギリスに1年間滞在した。ゼミはその関係で海外留学生の日本近代化に果たした役割を主題とした。

特に新島襄(同志社大創設者)やハーバード大の小村寿太郎(外務大臣)、伊沢修二(日本唱歌教育の父)のほか、ロンドン大の伊藤博文、井上馨、馬場辰猪らに興味があった。

このほか、馬場辰猪の組織した日本人留学生の会に参加せず、ミドルテンブルで法律を学んで帰国、自由党系の民権運動を展開した星亨(新潟農村出身、御家人格、司法省代言人)はその中心であった。

これまで海外留学生の目的は、兵学(軍事学)の修得にあったが、明治元年前後には法学、政治学に興味を広げ、自由概念も登場する。

自由とは何か。私はその源流となるシャウツドの森の隣接農村を調査し、論文化も試

みた。

馬場や星は帰国後、日本最初の演説結社「共存同衆」を組織し、最初の自由を基本とする憲法草案も作成する。このような動きは、今年度の会員希望テーマ「自由民権運動と五都市憲法」と直結する。地域から成長する自由化、近代化の研究の主要テーマである。

これは市民大学や「野老澤の歴史をたのしむ会」を通じて成長する会員諸氏の探究すべき点でもある。

「野老澤の歴史をたのしむ会」の一層の発展を期待する。

渡辺隆喜先生による「野老澤の歴史をたのしむ会」でのこれまでの、講座・テーマ

1. 2013年「明治維新と海外交流」
2. 2014年「維新直後の所沢社会」
3. 2015年「明治維新とアーネストサトウ」
4. 2016年「明治維新と長岡藩」
5. 2017年「神々とヤマト国家」
6. 2018年「日本近代史と田中正造」
7. 2019年「攘夷と開国の間 近代エリート
の形成」

野老澤の歴史をたのしむ会

10年の歩み

活動記録 平成22年(2010年)～

平成31年、令和元年(2019年)

◆平成22年(2010年)

*1月21日 サークル設立総会

参加者15名、会則、活動内容を検討、役員選定。代表嶋崎永司さん、副代表粕谷昇さん、幹事4名を選任

*2月18日 年間の活動内容を検討

市民大学第16期修了生より8名参加あり会員は23名になる。活動日は毎月1回、第3木曜日、当面3～4月の予定を決める。

*3月26日 ボランティアガイドによる

「旧町歴史探訪」Bコース

行程 齋藤家行在所～坂稻荷～川端霊園庚申堂～旭橋～鳥居橋～盃横町～秋田家～井筒橋～元花街～薬王寺

「ところざわのマチぶらり案内板」をベースにして案内して頂く。ガイドの中には市民大学OBの方も居り、我々の今後の目指す方向の参考になる。高層ビルの林立する街

並と所沢町時代のギャップが大きい。

特に市役所の移転に依る商店街の変遷は激しい。

*5月20日 幹事会にて22年活動予定作成

1. 「所沢郷土かるた読み札」(平成22年教育委員会)を今後の活動の参考にするべく検討。

2. 生涯学習推進センター木村立彦講師から「地名について」講義を受ける。「所沢」の地名の由来について①トコロ(ヤマイモ科)自生説②在原業平説③アイヌ語説④フトコロ沢説⑤オニドコロ説⑥ところ(野老)説等の説明があった。

又、「地名の変遷と背景」については①合併の中心になる組織の採用型②全体型③昔の名前持ち出し型④区画整理事業型等具体的な地名を取りあげての説明で自分の居住地への理解が深まったと思われる。

3. 「所沢飛行場100周年記念」のコンクール入賞の藤澤豊彦さんのDVDを鑑賞。

*6月11日 ボランティアガイドによる

「旧町歴史探訪」Aコース

行程 神明社～新光寺～三つ井戸～金山

神社～実蔵院～齋藤家行在所

*7月15日 終戦時の旧所沢飛行場外周を歩く

明治43年の第1期から昭和19年の第4期買収で合計約365haの広さになった外周約8kmを歩いた。買収されなかった土地は畑として残り、飛行場跡は大半が住宅地になっているコントラストは面白い。

大正3年、木村、徳川両中尉の搭乗した飛行機墜落の悲劇を与謝野晶子は次のように詠んでいる。

うら若き二羽の隼血に染みて

啼く音絶えたる二羽の隼

*8月19日 古文書の読み方講義

14時から約1時間、霜田照夫先生から「年貢可納割付之事」を使って古文書の読み方の講義を受ける。戊辰戦争当時幕藩体制の崩壊とともに浪士組諸隊が方々に結成され、それぞれの理念で活動が騒々しく展開された。その一つ「城窓隊」が所澤新光寺に屯所を構えた。その顛末等を古文書等からその背景を講義していただく。

*** 9月14日～23日** いきものふれあいの里
センターで開催されたところざわ倶楽部の
イベントに参加した。

サークルは「生物多様性に富む航空記念
公園は所沢飛行場の跡に誕生」のテーマで
展示。

*** 11月18日** 柳瀬地区の滝の城跡へ

柳瀬荘散策

「滝の城保存会」の新井利夫会長に2時間
程ご案内していただく。本丸跡から遠く柳
瀬川を眺める景観は素晴らしい。柳瀬川か
ら約25mの断崖の上に本丸を囲んで二の
丸、三の丸や各櫓更には空堀が巡らされて
いる。明確な築城主は不明だが、八王子城
の北条氏照の支城として1590年秀吉の
小田原攻めの折落城その後廃城になってい
る。その後「保存会」の努力で発掘がなさ
れ保存もすすんでいる。「滝の城まつり」も
毎年5月に開催されるようになり多くの
見物人が戦国絵巻を楽しんでいる。

滝の城から歩いて30分程の小高い雑木
林の中に黄林閣はある。「電力の鬼」松永安
左衛門が東久留米の旧家から譲り受けて別
荘として利用していた、建物は重要文化財

に指定されており、松永氏から寄贈を受け
た東京国立博物館が管理している。

松永翁は茶人としても有名で「耳庵」の
号を持ち「斜月亭」「九木庵」で盛んに茶会
を開き楽しんだようである。

*** 12月16日** 平成22年総会

平成23年より月2回第1木曜日と第3
木曜日を活動日とする。会員24名

◆平成23年(2011年)

*** 1月12日** 「まゆ玉団子作り体験」と

荒幡富士等を散策

まゆ玉の風習は小正月の14日までに飾
つてある正月のお飾りを下げ、まゆ玉団子
を飾る。このまゆ玉団子は養蚕の豊作祈願
の行事である。今回は荒幡のいきものふれ
あいの里センターにて行い、地元に住む粕
谷昇さんがコナラの枝を用意してくれたの
で、各々作ったまゆ玉で飾り自宅に持ち帰
ってもらった。

*** 1月20日** 平成23年前期活動予定を検討

*** 2月3日** 割烹美好での昼食会と

所澤神明社の節分祭見学

美好は明治15年創業の老舗で、飛行士の
訓練のために来日した仏・フオール大佐の
知遇を得て、戦前はかなり繁盛したとのこ
とだ。名物女将に座敷等を案内していただ
き往時を偲ぶ。その後歩いて10分程の神明
社の節分祭を見学。境内ではお神酒や甘酒
更に鏡割のお餅を焼いてふるまっている。
また神明社は航空発祥ゆかりの神社とし
ても知られている。明治に日本初飛行を果
たした徳川大尉が祈願した神社でもある。

*** 2月17日** 埋蔵文化センター見学と

砂川遺跡等の散策

行程 埋蔵文化センター見学く小手指ヶ原
古戦場く白旗塚く砂川遺跡くクロスケの家
く小手指駅

縄文時代の同時期に狭山丘陵に推定4
く5千人の縄文人が生活していたとの推
定は面白い。一家族4人として十家族を一
集落とすると40人になる。砂川、柳瀬川、
東川沿いには縄文遺跡が多数散在してい
るので十分可能性がある。

*** 4月7日** 狭山湖周辺の歴史を探る

山口貯水池（通称狭山湖）は、急増する東京市の人口対策として7年の歳月を掛け昭和9年（1934）に完成した。湖の工事に伴い勝楽寺村及び山口村、宮寺村の一部282戸1720余人の住民が近隣に移転した。狭山湖の桜は戦後多くの人の目を樂しませたが、初代水道局取水事務所長儘田司水氏の献身的な努力を忘れてはいけない。約一万本を植樹し「司水のサクラ」といわれている、又、司水は俳人であり句碑が西向観音堂の境内に建てられている。

浮寝して湖の心を鴨はしる 司水

湖の北岸には14世紀山口氏の支城として築かれた根古屋城跡もあるが現在に入ることとはできない。尚、神戸・淡路大震災を契機として平成10年（1998）より4年掛けて耐震工事が実施された。

* 4月18日 東山道武蔵路遺跡・新光寺と

東川沿いの桜並木散策

東山道武蔵路は紀元645年大化の改新により全国統治の「律令制」が急速に整備され、東海道・東山道等7本の駅路（七道）が7世紀末までに完成された我が国最古の国道である。その遺構（道幅12m）が「東

の上遺跡」に位置する西武所沢駅南西約1kmの南陵中学校の校庭から発掘された。

南陵中へ鎌倉街道へ実蔵院へ新光寺と歩く。新光寺のお祭り見学が本日の目的であったが、今年度は自粛とのことで祈祷済みのお札を檀家に渡している。

東川沿いの桜並木へ能面美術館へ熊野神社へ航空公園駅にて散会。

* 5月1日 多聞院「寅祭り、ぼたん見学」

多福寺散策

多聞院は牡丹が満開であるが強風で三富地区特有の土埃が舞っている。多聞院は武田信玄ゆかりの毘沙門天を祀っている。又三富地区を開墾した柳沢吉保ゆかりの寺でもある。

近隣の多福寺（三芳町）は広大な寺域の禅寺で三富地区では数少ない寺の一つである。

* 5月19日 いきものふれあいの里センタ

ーで茶摘みと手もみ茶作り体験

手もみ茶作りの工程へ茶畑で新芽を各々箆の半分程摘むへ茶葉の選別（汚れた葉やゴミを取る）へ蒸し器に入れて約15分蒸す（3回返しをする）へ蒸した茶葉を団扇に

て冷ますへ約100分作業台の上にて手揉み作業をするへ手もみ茶のでき上がり、終了後、講師より美味しいお茶の入れ方を教えて頂き、でき上がったばかりの新茶の香りを味わいながら美味しく飲む。自分で摘み揉んで作った新茶をお土産として持ち帰る。至福の一日だった。

* 5月25日、30日 久米川周辺の歴史散策

ラリーに参加

歴史散策クラブの主催で、地域の歴史を学びながら少人数でチームをつくり、ゲーム感覚で楽しむ散策である。9月に開催予定のところざわ倶楽部の行事のプレ体験として参加する。

* 6月5日 所澤神明社で人形供養祭りを

見学

午前11時からお焚きあげが始まったが、豪華な人形が焼かれるのは傷ましい限りだ。小寺人形協会会長にお伺いすると処分に困った全国の方から送られてくるが、最近では化繊で作られている人形が多く簡単に焼却できないとの話である。

*** 6月16日 小寺人形店で**

「所沢人形作りの歴史」を学ぶ

先日、人形供養にてお世話になった小寺さん(所沢人形協会会長)に、所沢の人形作りの歴史と背景更には現状をお伺いする。

地場産業としての人形作りの将来は厳しいとの認識である。最近はいく高価な帯を再利用した人形作りの注文が増加し、NHKのニュースでも取り上げられている。

*** 7月7日 埋蔵文化財調査センターで**

板碑の講義を聞き板碑拓本の体験

板碑は鎌倉時代から室町にかけて造立された。用材は各地域で産出された石材が用いられ、関東地方では緑泥片岩が多く用いられている。

埼玉県では特に盛んに造立されて、中世の歴史を知る貴重な資料となっている。板碑を構成する基本は、山形の頂部、2段の切込み、やや突出気味の額部、それ以下の身部、地下にさした基部からなっている。身部には仏像をあらわす梵字があり、造立年月の紀年銘が彫られるのが一般的である。

*** 7月21日 法華寺でほうろく灸体験**

ほうろく灸は「鎌倉時代、普段から頭痛持ちの武将が、夏の土用の戦の最中に鎧兜姿で落馬をしてしまい、その時ある僧が通りかかり、武将の兜の上から握りこぶし大の蓬を据え火をつけて祈祷したところ、たちどころに頭痛が治り武勲をたてた」という故事にならって、日蓮宗に伝わったといわれる。ほうろくを頭の上に両手で持ちお灸に火を点けると10分程でかなり熱さが伝わってくる。暑さ負け対策に良く効くという双子の住職の説教をありがたく聞く。

*** 8月18日 明大博物館見学と**

ニコライ堂等散策

明治大学博物館の展示は大学史、刑事部門、商品部門、考古部門に分かれている。考古部門には明治大学が三ヶ島地区砂川

にて発掘調査時に出土した石器類が多数展示されている。ナイフ形石器等の製作工程が明らかにになり石器類の接合という作業が初めて試みられ、「砂川遺跡出土品」として国の重要文化財に指定された。

刑事部門では「鉄の処女」や各国の拷問具が所狭しと展示されており、人の心の奥に潜む残虐さを余すところなくさらけ出し

ている。

ニコライ堂は日本正教会の首座主教大聖堂で日本正教会の中心的存在となった。

*** 9月20日 「ゆでまんじゅう」と**

「すいとん」作り体験

講師に所沢市食育プランナーの小林ヒデ子さんをお願いする。

メニューは地産地消を考慮して小麦粉を使用する「ゆでまんじゅう」と「とつちや投げ(すいとん)」とする。ゆでまんじゅうは「あんこ」を爆発させないように丸めるのが難しい。講師より「猫の手」で柔らかく均等に丸めるよう指導される。

和風サラダと三品を作り早速全員で食べる、ゆでまんじゅうは多めに作りご家族へのお土産とし味見をしてもらった。

*** 9月25日 糺谷八幡神社流鏝馬神事見学**

と狭山丘陵西地区歴史散策

大祭は本来9月29日で毎年流鏝馬神事が恒例となっている。此処でいう「流鏝馬」は神事として天保年間より伝承され儀式化されたもので、本格的な馬からの騎射ではない。

比良の丘は所沢で一番標高の高い所で、

地域の殆どを眺望できる。比良の丘から金仙寺を経て中氷川神社を見学する。中氷川神社は延喜式神名帳に記載されている式内社である。江戸時代には境内で流鏑馬が奉納されていたと古文書にある。又、代々宮司を勤める三ヶ島家より教育者の日歌輪翁、歌人三ヶ島葎子、俳優左卜全などを輩出している。

*** 9月27日、30日 ところざわ俱樂部、**

**歴史散策クラブ、当サークル共催の
歴史探索ラリーに参加**

27日 吾妻地区郊外の歴史散策。

30日は吾妻地区自然の中の歴史散策。

二日間のラリーには60名の参加者があり
晩夏の狭山丘陵を楽しんだ。

*** 10月8日 岩崎のささら獅子舞の見学**

岩崎獅子舞は昭和44年に所沢市の無形文化財に指定され、毎年10月の第2土曜日に市内山口の瑞岩寺にて「岩崎獅子舞保存会」の人々によって伝承されている。

瑞岩寺には山口城主山口三代の墓と伝えられる宝篋印塔や獅子舞をこの地にもたら

した旗本宇佐美氏の墓がある。

*** 11月3日 牛沼地区歴史散策**

航空公園駅→木村・徳田両中尉墜落慰霊塔見学→牛沼新田→所沢の巨木・櫓高さ25m・幹回り5.3m・市内2番の櫓の巨木・2等3角点跡見学→牛沼市民の森・牛沼新明神社（牛沼薬師如来・市指定文化財）真言宗長栄寺・閻魔堂（木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍像檜材寄進・市指定文化財）えんま祭り見学→茶畑→松井公民館→所沢駅東口（徒歩距離7km）長栄寺のえんま祭りには地区の小学校長を始めとして、多数の小学生が参加して行われて印象深い。

*** 11月22日 生涯学習推進センターで**

「三ヶ島葎子の生涯」の講義を聴く

講師 ふるさと研究 G 関谷副主幹

三ヶ島葎子は明治19年市内三ヶ島に生まれ、28歳で倉片寛一と結婚長女みなみをもうけている。市内出身の唯一の歌人であり、与謝野晶子や島木赤彦との交遊で知られている。葎子は40歳で亡くなったが、長女みなみの尽力で数多くの資料が収集、保存され平成4年所沢市に寄贈された。現在

は三ヶ島公民館に「三ヶ島葎子資料室」が開設され遺品が展示されている。所沢飛行場近くにあった倉片牧場に住んでいた葎子は次のような歌を詠んでいる。

朝空にプロペラの音しばしやみ

軒の雀のさへづるきこゆ

わが家のまうへをとほる飛行船

大いなるもの空をゆくかも

*** 12月15日 平成23年総会**

来期の代表に山本苗子さん、副代表に山下初代さん、幹事5名選任、会員29名

◆平成24年（2012年）

*** 1月5日 初水天宮・だるま市**

久米の水天宮の祭神は安徳天皇で安産祈願として有名で市内外からお参りの人が多い。毎年1月5日の初水天宮の大祭にはダルマ市が開かれ、長い参道は屋台で一杯であり大変な賑わいである。因みにこのダルマは東京ダルマと言われ瑞穂町周辺で作られている。水天宮は鳩峯八幡神社の摂社の一つである。八幡神社は921年京都の石清水八幡宮を分祀したものとされる。境内には新田義貞ゆかりの「兜掛けの松」があ

る。行程としては悲田処下バス下車く水天宮で40分程並ぶく鳩峯八幡神社くトトロの森2号地くイナゲヤで昼食く多摩湖周辺散策

*** 2月3日 神明社の節分祭&**

割烹美好で昼食会

昨年に引き続き美好で会食「フオール・カツレツ」を食べる。食後近くの所澤神明社の節分祭に行く。ところざわ倶楽部の他サークルのメンバーも多数見かける大賑わいである。尚神明社では神社には鬼は棲んでいないということで豆撒きの掛け声は「福は内」、「福は内」とのことである。

*** 2月16日 企画展「鎌倉街道」に行く・**

指定史跡菅谷館跡見学

菅谷館跡見学（ボランティアの学芸員の案内）く国立女性教育会館（食事）く企画展（埼玉県立嵐山史跡の博物館）見学く安岡正篤記念館見学（安岡正篤は昭和天皇や歴代の首相に大きな影響を与えた東洋思想家。終戦詔勅原稿の作成でも知られている）。

*** 3月1日 調理実習（手打ちうどんづくり）**

講師は小林ヒデ子さんをお願いする。

献立・手打ちうどん・天ぷら（地元産の野菜を使ったかき揚げ）・ほうれん草とヤーコンのごまあえ。手づくり料理は人の心を和ませ幸せな気分にしてくれる。参加者全員が協力して作った料理の試食では、笑顔笑顔お腹いっぱい幸せな気分になる。

*** 3月15日 第1回武蔵野三十三観音巡礼**

第1番 東高野山長命寺

第2番 豊嶋山道場寺

第3番 亀頂山三寶寺

メンバーの日頃の行いが良いこともあり、絶好の巡礼日和に恵まれた。春の香りと日差しも体いっぱい浴びた。みんな観音様のご利益でしょうか。心も洗われて、これからの人生が清く、楽しいものでありますように！！

*** 4月5日 第1回鎌倉街道を歩く**

鎌倉街道は治承4年（1180）源頼朝が鎌倉に拠ってから、御家人たちが「いざ鎌倉」と馳せ参じた道で、その代表的な道が上道、中道、下道であったといわれている。上道は高崎方面から児玉、嵐山、入間川、

所沢、府中、町田、瀬谷を通って鎌倉へ。

*** 5月1日 寅まつり（多聞院）**

境内には、色とりどりに咲き誇る約300本といわれる牡丹が見ごろで、「寅まつり」と合わせて多くの人が訪れて賑わっていた。「寅まつり」とは、毘沙門天の化身とされる寅に願いを請うお祭り、毎年5月1日に開催されて毘沙門堂に奉納されている寅は身代わり寅と言われている。

*** 5月10日 第2回武蔵野三十三観音巡礼**

・第7番 福寿山徳蔵寺 本尊は白衣観世音菩薩。境内入り口に、設備の整った校倉造の板碑保存館が建立されている。

・第8番 愛宕山圓乗院 見晴らしの良い緑豊かな狭山丘陵の一角にたたずむ圓乗院は、鐘楼門を入って本堂まで石段を登る。

手入れが行き届いた境内は、東大和市二十景随一の寺で、巡拝者に安らぎを与え、心とませてくれる。

*** 5月31日 第3回武蔵野三十三観音巡礼**

・第4番 光明山如意輪寺 本堂右手の古いお堂が入母屋造りの観音堂である。秘仏の

如意輪観音は、保谷の観音さまと親しまれている。

・第5番 寶塔山多聞寺 嘉永5年(1852)頃建立された重厚な造りの四脚門は一見の価値がある。

・第6番 安松山全龍寺 貞享4年(1687)と明治13年(1880)に火災にあい、記録及び什物の類は殆ど消失している。

正面に入母屋造りの本堂があり、仁王像と大きな石灯籠が立っている。

* 6月7日 第4回武蔵野三十三観音巡礼

・第9番 野老山實藏院 本堂内に観音として金銅の聖観音の立像が祀られている。

・第10番 遊石山新光寺 法隆寺夢殿を模した朱塗りの八角円堂の観音堂が鎮座。本堂内に行基作の本尊聖観音が祀っている。

・第11番 上洗山普門院 本堂内に千手観音が祀られ、境内に靈驗あらたかな「ボケ徐地蔵」が安置されている。

・第12番 梅林山全徳寺 本堂前方の観音堂に新しく造像した普悲観音が祀られているが、本体は本堂内に安置されている。

・第13番 吾庵山金乗院 境内には、千体の観音像と太平洋戦争の折りに供出された唐

金製観音像の頭部を安置している。本尊の千手観音は、33年に一度だけ開帳される秘仏である。

* 6月8日 養蚕農家小暮家を訪ねる

所沢市内ではわずか3軒となった養蚕農家を訪ねる。養蚕は、他の作物に比べて短期に収入が得られることから以前は盛んに行われた。しかし昭和30年頃に約900戸あった養蚕農家は現在3戸と少なくなる。減少の理由は、人材不足や安い繭の輸入等である。

* 6月21日 バス旅「行田市の遺跡を訪ねる」

く忍城・古墳群・古代蓮の里く

国宝の鉄剣が出土した埼玉古墳群を散策、水田の中に突然隆起した様な9基の古墳が現れた。高さ19mの丸墓山古墳と12mの稲荷山古墳に登る。何れも整備された階段があるものと思った以上の急階段であった。

丸墓山の頂上からは行田市中心部と忍城御三階櫓が見られた。県北の歴史ロマンに触れた一日であった。

* 7月5日 東山道武蔵路と鎌倉街道

(発掘調査からみた古代道と中世道)

講師は遺跡発掘の研究者でもある埋蔵文化財調査センターの根本主査にお願いした。東山道武蔵路は、古代武蔵国と都(飛鳥・奈良)を結ぶ幹線道路として整備された古代官道Ⅱ駅路で、そのルート、及び道路幅や構造も複数箇所における発掘調査から徐々に明らかになりつつある。

対して「鎌倉街道」は「いざ鎌倉へ」と言われるように、武士が鎌倉に馳せ参じる食料や物資を運ぶ道として整備され、多様な人々が往来したとされる道である。

* 7月19日 ブルーベリー狩り

「陽子ファーム」

陽子ファームは「安全でおいしい野菜を」との思いから、土作りにこだわり、平地林の落ち葉と米ぬかを混ぜた堆肥をベースに無農薬・無化学肥料の有機栽培を目指し、30年以上たった今も徹底されている。

・ブルーベリー豆知識

つつじ科の落葉植物。春・可愛いらしい花が咲き、初夏から夏・実が熟し、秋・紅葉が楽しめる。(ブルーベリー狩りは6月上旬から9月初旬位まで)

*** 8月2日 山田うどん工場見学&**

入間市博物館アリット

麵はこねて、ねかせて、足でふむ、それをすべてオートメーション化している。半製品を、関東一円250店舗に出荷。最後のうどん玉をケースに入れる時に人手がいる。試食も、とても美味であった。

すぐそばの入間市博物館アリット見学。

中国から世界各地へ伝えられたお茶の世界。関東ローム層が茶栽培に適していて、狭山茶は味で勝負とはいえ、昨年の放射線による風評被害は大きかった。地産地消、狭山茶をもっと飲んでいただきたいものである。

*** 9月20日 第5回武蔵野三十三観音巡礼**

・第14番 光輪山妙善院 10数段の石段を上り総門をくぐると、楼門造りの山門が現れる。札所の本尊は白衣観世音菩薩。

・第15番 長青山松林寺 切妻造りの山門をくぐると、石像の仁王様のお出迎え。昭和51年(1976)に再建された入母屋造りの本堂に詣でる。本尊は釈迦如来。堂内に安置されている札所の観音様は千手観音。
・小野家住宅 江戸時代中期に建てられた

茅葺き入母屋造の民家。県内に広く分布する三間取り広間型の典型的遺構。武蔵野の開拓農家の面影をよく伝えており、国の重要文化財に指定されている。

*** 10月4日 第6回武蔵野三十三観音巡礼**

・第17番 福聚山徳林寺 境内の高台に聖観音を安置する観音堂がある。裏手に石仏の大観音像が建立されている。

・第16番 妙智山慈眼寺 本堂に内拝して、坐像の本尊・聖観音を拝礼できる。

・第18番 世音山蓮花院 観音堂は天保6年(1835)に再建された寄棟造の建築で、入間市の文化財に指定されている。札所本尊は千手観音。

・入間市の歴史的建造物見学

国道16号沿いに建つ旧石川組製糸西洋館は「国登録文化財」となっている貴重な建造物。石川組の社長が取引先の貿易商を招くための迎賓館として大正11年(1922)頃建設した。

*** 10月5日 航空自衛隊入間基地内見学**

今日の案内と説明はバスの運転を兼ねた広報自衛官であった。入間基地は航空機50

機保有しているものの戦闘機はなく、防空、災害派遣、国際平和協力活動、要人輸送を任務としており、2,000メートルの滑走路を中心に飛行機格納庫、修理棟、物品備品棟、管理棟、厚生施設棟、住宅棟の施設を持ち、約4,300名の隊員を擁して航空自衛隊最大規模を誇っている。

今日一日、我が国の平和と安全、国際社会における平和と安定の任務を日夜務めている航空自衛隊入間基地を、広報自衛官の案内により堪能した。

*** 10月18日 第2回鎌倉街道を歩く**

鎌倉街道上道が入間川を渡るところにあったと言われる八丁の渡しに到着。現在の昭代橋と新富士見橋の間で「八丁の渡し」を船で渡っていた。木曾義仲の子義高が人質として鎌倉にいたが鎌倉から逃亡を図り、一時難をのがれたが捕まり討ち取られた。義高の婚約者である頼朝の娘大姫は嘆き悲しみ亡くなってしまった。

母政子が義高の霊を祀った神社が清水八幡神社である。影隠し地蔵の前の坂が「信濃坂」と呼ばれていた。右手に鎌倉街道上道石碑を下ると霞野神社に出る。霞野神社

は旧女影村一帯の神社を合祀して建てた神社である。境内に女影が原古戦場跡碑の案内板があり、建武2年北条時行が中先代の乱のとき、足利直義とこの辺りで戦ったことを示すものである。

*** 11月1日 第1回軽便鉄道**

「西武球場前駅近辺」を歩く
東京市の水需要を賄うため、大正10年（1921）村山貯水池（多摩湖）の建設に際し、多摩川羽村堰付近から水を貯水池に導くため導水管が敷設された。その工事の時、約7.8kmのトロツコ軌道が部分的に敷かれた。その後、昭和3年（1928）山口貯水池（狭山湖）堰堤工事で大量に必要とされる砂利運搬のため、先のトロツコ軌道を再利用し、羽村から山口貯水池までの全12.6kmの貨物鉄道を敷設。これが、軽便鉄道「羽村〜山口線」（仮称）と呼ばれる鉄道である。

*** 11月22日 みかん狩り三ヶ島「師岡園」**

濡れた落ち葉を踏みしめ紅葉を眺めながら、「師岡園」に到着。園主よりみかん園の概略説明を受けた。40年前に、養蚕農家

からみかん農家となり、愛知から苗を取り寄せてみかんの栽培が始まり、35年前から収穫できるようになったとのこと、

いよいよみかん狩りの始まり、南斜面にみかん畑が広がり、眩しいくらいの陽射しを浴びて、オレンジ色のみかんに心が和み、木を傷めないように、一人、2〜5キログラムを籠に取り入れた。初めての体験をした方も感激した。

*** 12月9日 熊野神社「しめ縄作り見学」**

氏子たちは、拝殿にて神官による御祓いを受けたあと、鳥居から古いしめ縄をはずし袋に入れた。下ろすと意外に太く感じられ、一年の風雨で崩れやすかった。他の一隊はこれから作る藁をしごいていた。藁は三ヶ島地区糺谷の八幡様の御神田で作られたものだそう。神楽殿からの作業は神官の指示で、藁の胴体、頭部の顎の上下、歯、白髪、角部分の作成が手分けして行われた。信仰の由来は、鳥居の間余り離れたところの太木に白蛇が棲んでいた。その姿を見たものが癌にかかったため鳥居に蛇を祭るから姿を出さぬよう封じ込めたことから、藁で蛇姿を模して鳥居に掛けるようになった

たと言う。

*** 12月20日 平成24年総会**

来期代表に戸田チイ子さん、副代表に内尾幸子さん、幹事6名選任、会員31名

◆平成25年（2013年）

*** 1月22日 武蔵野七福神めぐり**

「地域の自然を考える会」と「野老澤の歴史をたのしむ会」が武蔵野七福神を福祉バスで巡ることにした。

- ①布袋尊 所沢市金乗院
- ②大黒天 入間市豊岡長泉寺
- ③弁財天 入間市野田円照寺
- ④福祿寿 飯能市平松円泉寺
- ⑤寿老人 飯能市山手町観音寺
- ⑥恵比寿天 飯能市諏訪神社
- ⑦毘沙門天 飯能市矢嵐浄心寺

武蔵野七福神はいつごろからそう呼ばれていたのか、七福神札所は所沢市、入間市、飯能市に昭和6年に発足し、お参りが始まったのは昭和13年からで埼玉県では一番古い歴史を持つ。

*** 2月7日 「所沢飛行場100年」**

3年前に「16期の所沢市史」グループが発表した「飛行場100年の歴史」を、サークルの皆で鑑賞することにした。

グループワークの発表のため、「市史」グループが頑張つて勉強したことなどの思い出話にも、懐かしく耳を傾けた。序章から第9章のアンケートまで、年代順に纏まりのあるプレゼンであった。

*** 2月21日 「所沢地産地消」**

里芋だんごいりけんちん汁

講師、小林ヒデ子さんに所沢名産の「里芋」を使った、もちもち感のある「里芋だんご入りけんちん汁」「お赤飯」「春菊と人参の胡麻和え」などの作り方を教えていただいた。食材はいずれも地元産の新鮮なものを使い、バランスを大切にと、先生より「伊達巻」「金時の煮豆」「蒨の炒め物」「大根甘酢漬け」の差し入れをいただき、思いがけなく膳が賑わい、色彩も豊かに美味しく頂いた。

*** 3月7日 第7回武蔵野三十三観音巡礼**

・第19番 法栄山東光寺 本堂左手の薬師堂に札所本尊の聖観音が安置されている。

薬師堂前の多羅葉の木は入間市指定の天然記念物である。

・第20番 龍岳山龍圓寺 札所本尊は千手観音。狭山茶の故郷として、境内の前には北狭山茶葉の石碑が立っている。

・第21番 諏訪山高正寺 本堂の左手に五基の入間市指定の文化財の板碑がある。内一基は入間市最古の板碑。本堂内に祀られている札所の観音は聖観音。

・第22番 光明山円照寺 住職の御内儀の計らいで本堂に入室させて頂いた。本堂内には、各界名士染筆寄進の数百枚の絵馬の一部が掲げられている。

*** 3月21日 高橋玄洋先生を囲む座談会**

所沢を舞台に書かれた「人工樹林」を中心に先生の話が進められた。

昭和55年「人工樹林」を発表したが、この本は小説であって、自分にとっても所沢市民にとっても所沢の歴史を書くことが目的ではなく主人公がこの時代の所沢の地盤に育つてどのように成長していったかをあらわすことが目的であった。場所として「所沢有楽町」―東川沿いの町、小さな路地に不思議な「にょい」を感じた。「にょい」で感じ

た五官、人間の中の一番どうしようもないもの、人間らしさを取り上げたいと思って「有楽町」のあたりを調べ、舞台とした。

*** 4月4日 第8回武蔵野三十三観音巡礼**

・第23番 寂光山浄心寺 入母屋造りの観音堂には、十一面観世音が安置している。

十一面観世音座像は、付近の本明院の本尊であったが、廃寺となり当寺に移された。身代わり観音といわれ、災難除け開運出世の観音様として広く信仰を集めている。

・第24番 般若山観音寺 本堂の左手にある間口三間、寄棟造、瓦葺の観音堂は明治42年（1909）に建立された。ご本尊は、弘法大師の如意輪観音。現在の本堂は、明治16年（1883）に再建された建物である。それ以前にあった本堂は、慶応4年（1868）の飯能戦争で焼失してしまった。

*** 4月18日 第3回鎌倉街道を歩く**

火事場でバス立ち往生、トラブルに見舞われたのはBコースを利用した3人。武蔵高萩駅手前の高麗川団地付近の火災でバスが立ち往生。武蔵高萩駅まで約2kmを歩かれ、予定時間17分の遅れで武蔵高萩駅を

スタート。本日の行程は武蔵高萩駅→鳩山町10km、主な見学場所は以下の通り

- ① 役場駅前の国渭地祇神社に拝礼
- ② 毛呂山町歴史民俗資料館
- ③ 鎌倉街道遺構の地を500m歩く
- ④ おしゃもじ山公園のつつじ

*** 5月2日 第9回武蔵野三十三観音巡礼**

- ・番外 箕輪山靈巖寺 この寺の見どころは、枝垂れ桜と岩盤の上に立つ箕輪観音。
- ・第26番 高麗山聖天院 聖天院は、僧勝楽と若光の三男聖雲、若光の孫弘仁により創建された。

- ・第27番 栗原山勝音寺 非運な寺で、創建以来再三火災に見舞われている。

高麗駅前の広場に立つ「天下大將軍」「地下女將軍」の台座で次の電車を待った。

*** 5月23日 北野天神の歴史と由来**

境内見学は栗原宮司さんに案内していただき説明をお願いした。文化財については貴重なもので痛みが激しいとの事、北野天神縁起の一部しか拝見出来なかった。

北野天神社は日本武尊東征の折、創建されたと伝えられ、所沢市で最も古く由緒あ

る神社で延喜式内社である。鎌倉時代初期に源頼朝の庇護を受け、南北朝時代の小手指ヶ原の合戦の折には新田義貞が戦勝祈願。正平7年、足利尊氏と新田義貞の子義宗との小手指ヶ原合戦での新田方の旗印である後醍醐天皇第三皇子征夷大將軍・宗良親王御在陣御遺蹟の歌碑がある。

*** 6月6日 第10回武蔵野三十三観音巡礼**

- ・第28番 寶雲山龍泉寺 昭和26年(1951)に建立された本堂で、本尊の千手観音を拝礼。この寺は写仏と蓮で知られている。写仏の会員が延べ2千人がかりで本堂の天井画を描いた。

- ・第29番 清流山長念寺 足下の危ない石段を登り紫陽花の参道を歩き土蔵造りの観音堂に詣でる。堂内には聖観音像が安置されている。

- ・第30番 楊秀山福德寺 無住の寺で本堂に安置されている札所本尊は聖観音。

*** 6月20日 サントリー武蔵野ビール**

工場見学

大國魂神社は出雲の大国主神と御同神で、武蔵国の護り神としてお祀りした社である。

本殿に参拝して緑深い木立の中を散策。サントリー武蔵野ビール工場へ、受付を通り見学コースのスペースで他のグループと一緒に待つことになった。スタッフが見学スタートになる3階に案内してくれ、ビールが出来るまでの工程(①製麦 ②仕込 ③発酵 ④貯酒 ⑤ろ過 ⑥缶・樽詰)を説明していただいた。

最後に、お待ちかねの試飲タイム。出来たてのビールの温度、泡の出来具合もほどよく美味しく味わった。

*** 7月1日 第1回富士塚巡り**

今年度新企画の富士塚巡りの第一回を所沢市荒幡にある荒幡富士の山開きに合わせに行った。本家富士山の世界遺産登録の影響もありNHK、埼玉TV等のメディアやアマチュアカメラマンも多数見えていた。

当日は近くの幼稚園の園児も多数参加しており賑やかに登頂していた。荒幡富士の概要は明治17年着工し15年もの歳月を費やし明治32年に完成。塚の高さは約16mで、標高は119.1mである。

*** 7月22日 ほうろく灸体験**

法華寺では例年土用丑の日（7月22日）には「ほうろく灸」を行っている。

「鬼子母神様」にまずお線香をあげ、副住職が概略説明。「ほうろく灸祈祷」は一番暑い土用の丑の日に行う日蓮宗の祈祷で「暑氣封じ、夏バテ防止、頭痛封じ」の利益を得ることができる。江戸時代から続く祈祷である。めいめいの頭上に呪文の書いた「護符」を乗せ、その上に素焼きの「焙烙」、さらに「もぐさ3個」を置いて火をつける。「護符」や「もぐさ」が風で飛ばないように窓ガラスを締めて行をする。やがてモグサの白い煙が立ち込める中、参加者は部屋の蒸し暑さと頭に載せたお灸の暑さで汗を流しながら一年の健康などを願っていた。

*** 8月1日 渡辺隆喜先生を囲む座談会**

講師は、明治大学名誉教授渡辺隆喜先生。演題は「明治維新と海外交流」。

維新当時「富国強兵・西洋文明に迫いつけ追い越せ」とばかりに幕府・維新政府・民間等沢山の使節団、留学生がアメリカをはじめイギリス、ドイツ、フランス等に派遣された事は華々しく語り伝えられ、明治時代の陽の部分として広く国民に理解され、

明治時代への憧れのひとつもなっていた。

先生のレジメは50枚弱に及ぶ現地の写真と関係者のレポート等を元に当時の様子、その後の出来事等を裏話的に話され、参加者の皆さんも明治の頃の日本人は凄いなとの思いも含めて、認識を新たにしました。

*** 9月19日 第2回富士塚巡り**

中里富士塚では、毎年9月1日に「火の花祭り」が行われる。この行事は、講中が富士塚で経文を唱えたあと、円錐形の麦わらの山に火がつけられ、その火にあたり、灰を家に持ち帰って門口にまくと火災除けや魔除けになり、畑にまくと豊作になると伝えられている。登山道にロウソクが灯された幻想的な有様が目に浮かぶ。

北秋津富士塚のある新井家は明治期に富士講の流派のひとつ官位講の先達を務め邸内に小規模な富士塚と富士講記念碑がある。

*** 10月3日 第11回武蔵野三十三観音巡礼**

結願（バスで巡る）

本日の八王寺（竹寺）で結願を迎えた。
・第25番 圓泉寺 弘法大師が巡錫のおり、草堂を建立したのが始まりと観音堂の由来

に書かれている。

・第31番 法光寺 境内の一面に梵鐘があった。これは先の東日本大震災時津波で流された「宮城県名取市閑上の東禅寺」の大梵鐘である。

・第32番 天龍寺（子の権現）境内にある重さ2トンの日本一の鉄のワラジは本尊様へ履物を奉納し願をかける習わしがある。

・第33番 八王寺（竹寺）住職の精進料理の説明に、竹筒で飲む酒も風情あり。料理の数々はどれも美味であった。本殿登り口に「茅の輪」が設けられていて、これめぐり心身の清浄を願う。境内は竹林に囲まれた山寺である。結願所での記念撮影は良い思い出となった。

*** 10月17日 第4回鎌倉街道を歩く**

本日の行程は前回の到着点の鳩山町役場前より武蔵嵐山駅までの12km、主な見学場所、

① 赤沼古代瓦窯跡 近くの鳩山町農村活性化施設「まつぼっくり」でボランティアが瓦焼を復元しており、いろいろ説明を受け全員感激した。

② 笛吹き峠 正平七年（1352）宗良親王を奉じた新田義貞の二男義宗と足利

尊氏が戦った。戦で敗れた義宗は、越後方面に落ち延びたと伝えられている。

久寿二年（1155）源義朝は弟義賢を大蔵館に襲い闇討ちにした。義賢の長男駒王丸は木曾に逃れて後に木曾義仲となり義朝の三男頼朝と争うのは源氏の宿命と言える。途中スズメバチに何度か遭遇したが見所十分の日であった。

*** 11月7日 第2回軽便鉄道「羽村く山口線」**

廃線跡を歩く

今回は、多摩川の羽村堰から玉川上水を下り、村山・山口貯水池への導水管取り付け場所。多摩川の砂利運搬のための軽便鉄道の始点。そして軽便鉄道廃線跡を辿り、前年歩いた横田トンネルに至る探索型の歩きで歩行距離は約15kmである。

行程、羽村駅く五ノ神まいまいず井戸く羽村堰く導水管取り付け場く軽便鉄道始点く米軍ハウス突当りく箱根ヶ崎く米軍基地を周回く新青梅街道交点く横田トンネル

*** 12月11日 所沢飛白**

所沢飛白勉強会の宮本八恵子先生を迎え山口民俗資料館で講話を行った。

緋の誕生は文化年間と伝えられ薩摩緋の前掛け切れを持ち帰り荒畑シモが模織を試み試行錯誤の末、十の字や井桁の緋を完成させたと言う説明を受ける（諸説あり）。所沢緋は東北、北陸など寒冷地へ出荷、明治末期にはかげりが見えはじめ売れ行きは下降線をたどり、昭和恐慌のあおりを受け衰退。機屋の多くは緋生産に見切りをつけることになる。その後、数件の機屋が続けていたが昭和10年代前期ごろ所沢緋は120年の歴史に幕を閉じるようになった。

*** 12月19日 平成25年総会**

来期代表小倉洋一さん、副代表佐野弘太郎さん 幹事6名を選任、会員36名

◆平成26年（2014年）

*** 1月9日 まゆ玉飾り（体験）**

まゆ玉飾りとは養蚕が盛んだった地域に残る年中行事のひとつで、繭の豊かにできることをお祈りする行事である。

石臼を土台にして団子とみかんを枝にさして座敷や台所に飾る。石臼を廻して上新粉作りを体験、子供の頃体験のある人は一人でも廻せるが始めての人は二人がかりで

やらないと重くて廻らない。体験なのでこの粉は今日の材料にはならない。「ナルカナラヌカ、ナラヌトブツタギルゾ」とみんなで唱えながら団子の蒸し汁を木の根元にかけて「成り木責め」を行った。本来は柿の木にするそうだが、柿の木は近くにはないので一番近くの木に行った。

*** 1月25日 「武蔵野話」を聴く**

「武蔵野話と斎藤鶴磯」について木村立彦氏の講義により学んだ。

初篇は文化12年（1815）刊、序文によれば鶴磯が所沢に寓居する間、閑をみつめては周辺に足を延ばし、叢の祠や、古い社寺を訪ね、或は旧家に伝わる古器や旧記を見たことを筆書きし刊行している。

所沢に居住していたのは寛政8、9年から20年余りと見られ代表作「武蔵野話」を刊行。文化13年（1816）「武蔵野話」の記述をめぐり訴えられたいわゆる筆禍事件をきっかけに所沢を去る。野老澤と表記されたのがこの「武蔵野話」が最初である。

*** 2月6日 手打ちうどん作り**

所沢名産の「手打ちうどん作り」を体験

- した。①ボウルに小麦粉を入れ、少量の塩水を入れ、箸でかき混ぜてから、よくこね②ひとまとめにして、コメ袋などに入れて足で踏み、よく伸ばし、これを繰り返す。③袋から取り出した生地を、台の上において、麺棒で縦横交互に押し延ばし、厚さ3mm程度に打ち上げたところを包丁で切る。④鍋にたっぷりの熱湯で12〜13分ゆでる。⑤ざるにあげ、よく水洗いする。

この間に、てんぷらを揚げる、たつぷりのうどん、糧（ほうれんそう、ネギ、シイタケ）で、皆満腹、幸せな笑顔となり、所沢の食文化を満喫した一日であった。講師には今年も小林ヒデ子先生にお願いした。

* 2月20日「鎌倉街道の歴史的背景」を聴く

今回は「所沢の鎌倉街道を歩く会」代表である岩田武夫氏を講師に「鎌倉街道の歴史的役割と歩くうえでの所見」を聞いた。鎌倉街道と言えば、幕府に一大事が起こった、武士は「いざ鎌倉」と馳せ参じなくてはならなかった「上道、中道、下道」の3本がある。小手指ヶ原や分倍河原の古戦場跡を通る上道はよく知られた道である。

この上道を鎌倉まで歩くことにした。

80kmと長い道中を歩くための留意点を聞いた。①交通規則を守る。②史跡や文化財の貴重な遺産などに手を触れたり傷つけない。③神社仏閣の前では宗教や信仰の有無にかかわらず敬意を表する。④ゴミ類は途中で捨てない。⑤勝手な行動は慎む。これら事項を守り鎌倉を目指すことにした。

* 3月6日 第1回狭山三十三観音

霊場巡り

「狭山三十三観音霊場」は所沢市、東村山市、東大和市、武蔵村山市、瑞穂町、入間市の6市町に、多摩湖・狭山湖の周りを「の」の字を描くように点在している。

今回は1番から8番札所まで巡礼した。第1番札所の金乗院では、お参りのあと、内尾さんを先達として全員で「般若心経」を唱えた。③六斎堂④正智庵では本堂はもちろんのこと、寺院としての建物はなく、六斎堂は墓地の中に小さな堂があるだけ、正智庵は東屋のような庵跡で、見過してしまふ。昼食の後、普門院そして新光寺でお参りを済ませた後、解散。

* 3月20日 「昔の暦」入門

活動をするうえで、神社仏閣の100年以上も前の石碑などに描かれている文字や、旧暦表記の年代などを、少しでも理解出来るようになれば散策の楽しみが、増していくとの趣旨で開催した。

当日は小川達夫先生を講師に「古い石碑を読むために」をお願いした。

日本で初めての暦は中国から伝わった推古天皇の時代7世紀初頭とのこと。この難解な「昔の暦」を、受講者の方々が理解できるように説明していただいたが、まだまだ十分理解するまでに至らないので、先生の資料を参考にして古い神社やお寺を歩いて現物を確認してはどうかと助言があった。久しぶりに中身の濃い講義であった。

* 4月24日 第1回鎌倉街道を歩く

今回は、所沢から鎌倉まで80kmを歩く、第1回で、行程は所沢駅〜恋ヶ窪駅までの約9km。主な見学場所は、
・久米川宿、立川家長屋門。日蓮が佐渡へ流されるとき、宿泊したと言い伝えられている。
・白山神社の牛頭天王像。明治の初め、井

戸の中からみつかったという牛頭天王の石像（座像）が安置されている。

・九道の辻 西武多摩湖線八坂駅近くにある標柱。江戸道、引股道、宮寺道、秩父道、御窪道、清戸道、奥州街道、大山街道と鎌倉街道の九本の道がこの地で分岐していたことでこの名が付いたといわれている。

・玉川上水 多摩川の羽村堰から四ツ谷大木戸に至る全長43kmの水路である。

* 5月1日 第3回富士塚巡り

1. 江古田富士 富士塚は、浅間神社社殿裏にある。江戸時代後期に「小竹丸祓講」によつて天保10年（1839）に築かれたと考えられる。高さ約8m、直径約30mの大型の富士塚である。

2. 下練馬富士 東武練馬駅のすぐ前の旧川越街道を徒歩数分で富士塚のある浅間神社へ。社殿の左隣に富士塚がある。高さ約5m、直径約15m。

3. 白子富士 熊野神社の参道の右手に白子富士の入口。明治3（1870）年に丸瀧講によつて築かれた。

4. 仙波の富士 神社の本殿は、富士山の溶岩に守られるように祀られている。

* 5月30日 ところざわ倶楽部文化祭に

参加

サークル有志で安来節を文化祭で踊ろうということになり、シルバー人材センターの品川和子さんにご指導をお願いする。猛練習で腰、膝を痛め脱落者続出。当日は地元出身の内尾さんの美声を背景に出演者9名で成果を披露し、大喝采を得た。

* 6月19日 所沢の鉄道119年

― 12の停車場物語 ―

市民大学第18期「所沢市史」グループが3年前、発表した「所沢の鉄道116年―13の停車場物語―」をベースに、年代修正、写真等を補足した「所沢の鉄道119年―12の停車場物語―」である。

現在、所沢には10の駅があり、廃駅となつた駅が2ある。これら12の駅の誕生は、時代的背景、複数の鉄道会社による乗降客の争奪、米軍軍事物資輸送、第2次世界大戦後の市街地開発、新交通システム等の要因があり、それらの発表DVDを鑑賞した。

* 7月3日 ロッテ狭山工場見学

お口の恋人で有名なお菓子メーカー「ロッテ狭山工場」の生産工程を見学した。

玄関を入るとすぐ、パネルやビデオによる工場の説明があつた。キシリトールのガム工場では日本一の規模を誇っているとのこと。今日の見学は粒ガムの包装工程である。オートメーション化での行程が一望。チョコを注入する前の焼きたてのコアラのマーチを食す、小麦粉の焼けた香ばしい味と食感がよかった。コアラのマーチは1984年に発売。コアラの来日に合わせたもので、箱は、ユーカリの木の断面を模して六角形をしている。

* 8月7日 渡辺隆喜先生を囲む座談会

明治大学名誉教授渡辺隆喜先生に「維新直後の所沢社会」の講義をお願いした。これは、昨年末の「維新前夜の所沢地域」に続く講義である。維新直後とは、明治元年から10年までで、講義の概要は、

1. 政治上の動き
2. 近代的諸施策の推移
3. 学校制度の成立
4. 地租改正と徴兵令
5. 廃仏毀釈

以上の項目であるが、随所に、エピソードを交えながら、あつという間に予定時刻になっていた。

*** 9月4日 ぶどう狩り**

「歓迎 狭山湖ぶどう狩り中山ぶどう園」の看板に迎えらる。

紙袋をかぶったぶどうの房が一面に広がっている。棚は低くかがんで歩くようだ。長いテーブルにたくさんぶどう（巨峰、スチュウベン）が並んでいて、楽しいおしゃべりをしながらの食べ放題であった。帰りには、お好みのぶどうと、野菜を購入し、自宅へのお土産となった。

*** 9月18日 第2回狭山三十三観音**

霊場巡り

狭山三十三観音霊場のおこりは、天明時代と伝えられている。時代背景としては天明の大飢饉があり自然の災害や病魔・暴動などで苦しんだ庶民が、祈りを求め「病氣平癒」「商売繁盛」等人々にとって身近な願い事かなえてくれる観音信仰となった。

今回は 9 番梅岩寺、10 番瀧谷寺、11 番徳蔵寺、12 番永春庵、13 番正福寺、14 番

寶珠禪寺、15 番清水観音堂、16 番三光院、の 8 寺の巡礼を行った。

東村山駅から武蔵大和駅まで約 9 km の歩行距離であった。

*** 10月2日 第2回鎌倉街道を歩く**

今回は恋ヶ窪駅～府中中河原駅まで歩く。主な見学場所は、

・姿見の池 畠山重忠が、討死したという嘘の情報に夙妻太夫は嘆き悲しみ身を投じたという伝承が残っている。

・東山道武蔵路 古代官道、東山道上野国の新田駅付近から武蔵国府に南下する武蔵国を通る支道である。

・国分寺周辺の史跡 武蔵国分寺は天平13年(741)聖武天皇詔勅を受け建立されたもので、東西880m南北550mというわが国最大級のものであった。

・駅前にある義貞の銅像 北条軍との分倍河原の合戦での勇壮な姿を想像する。

合戦で勝利しその勢いで鎌倉まで攻め入り140年に及んだ鎌倉幕府を滅亡させた。

*** 10月16日 第4回富士塚巡り**

・千駄ヶ谷富士 鳩森八幡神社の大鳥居をく

ぐった左手に、寛政元年(1789)築の都内最古といわれる高さ約6m、直径約25mの千駄ヶ谷富士がある。池は、塚を造るため土を掘ってきたもので江戸時代の塚の築造の特徴となっている。

・目黒元富士 明治11年(1878)に取り壊され、氷川神社境内に移された。神社は玉川通りから急階段を登る。この階段の急坂を利用して目黒元富士は作られている。

*** 11月3日 出雲伊波比神社流鏑馬神事**

出雲伊波比神社に伝わる神事で、県指定民俗資料の流鏑馬祭を見学した。

流鏑馬といえば、疾走する馬上から弓を射る勇壮な武芸。鎌倉時代に隆盛を極め、実戦で使われたのはもちろん、神事としても発達してきた弓術である。

主神 大国主神(国造りの神、産業の神)

天穂日命(出雲臣武蔵国の祖神)

毛呂山町の流鏑馬は永承年間、源頼義・義家親子が奥州平定の途中、出雲伊波比神社に参拝して戦勝を祈願し、康平6年の凱旋の際、再びこの地を訪れて流鏑馬を奉納したのが起源とされている。

***11月20日 第1回玉川上水を歩く**

最初に羽村駅北側にある、「まいまいず井戸」を見学した。当時の削井技術では深い井戸を掘る事が出来なかった、そのため、地表をすり鉢状に井戸を掘った。

次に玉川上水へ。取水口、固定堰や川の流れを誘導し取水量を確保するなど、生活を妨げない先人の知恵に感心した。

【玉川上水の歴史と目的】1653年の約8か月間で開削して、①水不足。②防火。③武蔵野台地の開拓。の対策であった。

取水口のある羽村から四谷大木戸まで約43km、高低差約93m、この間、野火止用水をはじめ多くの分水が有る。

玉川上水の自然的な側面、開削する技術的側面、さらに維持するための社会的側面などからみるとまだまだ興味が湧いてくる。

***12月4日 平成26年総会**

来期、会員32名。(12月18日秩父バス旅の参考のため映画「草の乱」を観る)

***12月18日「秩父事件の足跡」をバスで巡る**

秩父事件は今から130年前の明治17年(1884) 深刻な不況と生糸の暴落、

高利貸の暴利によって困窮した秩父地方の農民たちが蜂起した事件である。

郷土史を研究している秩父在住の飯塚氏にご案内いただいた。

石間交流学习館までの車中、秩父神社、井上伝蔵を匿った斎藤新左エ門家、落合寅市墓・生家、加藤織平生家・墓、等を車窓から見学した。

棕神社は明治17年11月1日、三千余名にも及ぶ農民達が集結。小鹿野町・大宮郷へ向け一斉に蜂起した拠点である。

音楽寺に集まった農民が梵鐘を乱打して大宮郷の高利貸しや郡役所、警察になだれ込んだ拠点でもある。

◆平成27年(2015年)

***1月15日 「所沢の食」里芋を使って**

これから始まる里芋団子とはどんなものだろうと興味津々。まず講師の小林ヒデ子先生から所沢の名産「里芋」を使った「里芋団子入りけんちん汁」をはじめ、「お赤飯」「白和え」等のレシピを基に説明があり、その後4つのグループに分かれ調理をスタート。レシピや説明だけでは判らない微妙な部分で様々な声が飛び交う場面も。お団

子の固さは「耳たぶの固さ」といっても、料理を余り経験していない男性の場合、とても難しく感じる。

そして、日頃の活動を通じて培われたチームワークを生かしなんとか料理が完成。先生からの差し入れもあり、テーブル一杯の料理を味わい、和やかに会話が弾んだ。

***1月22日 所沢飛行場100年の歴史**

野老澤の歴史をたのしむ会は16期所沢市史グループの有志が立ち上げたサークルで、今年で7年目を迎えた。今回は「所沢市史」のグループワークで発表した「所沢飛行場100年の歴史」を大幅に補足し、発表会の再現となった。

序章、テーマ選定について、第1章、飛行場開設前の所沢(第9章、アンケートとまとめまで。

基地返還についてのアンケートは、次の皆様方にご協力をいただき実施した。(市民大学第16期、第17期受講生、33期高齢者大学受講者、計280名)

***2月5日「所沢市民大学第20期、第21期」**

所沢市史グループワーク発表

1. 20期の発表「所沢を支えてきた地場産業の歴史」。所沢ブランドと言われる3つの産業について学習した。①製茶業の歴史②所沢織物の盛衰③人形の町所沢。

・生い立ち／現況／これからの展望についての発表であった。

第5次所沢市総合計画に「所沢ブランドの創造と地域経済の活性化」が、重点課題として、「地場産業の育成」「地産地消の推進」があげられている。皆さんも地場産業について考えてみてはいかがですか…

2・21期の発表「所沢の元気なまちづくり」「まちの再生に三つの提言」と題して、①ひとを元気に②まちを元気に③革新的な再開発で元気に。

所沢市中心市街地には高層マンションビルが林立し、従来の商店がシャッター街となっていく現実を直視して、「元気なまち」とは、産業・経済活動に活気があるまち。地域に伝統行事に市民が積極的に参加するまち。市外から訪れる人が多いまちと位置づけた。

このグループ発表のあと質疑応答があり、「三つの提言」は理解できるとしつつも、

私たちはどのような具体的行動を起こすかを考えさせる、問題提起の発表であった。

* 2月28日 第2回武蔵野話を聴く

講師木村立彦先生

斎藤鶴磯の著した「武蔵野話」と徳川幕府編纂の「新編武蔵風土記稿」の所沢記述について読み比べてみた。(所沢近辺のみ) 所沢村の記述に

1. 「武蔵野話」は鎌倉道の方から記述しているが

2. 「新編武蔵風土記稿」では河越城ヨリ南の方となっている

所沢の記述についてもこの様な相違がみられる、しかし何れも古道ぞいにある家並みの挿図が現在とあまり変わらず描かれて、江戸時代の風景を表している様が見える。

* 3月5日 メガソーラー所沢(北野)を

見学する

狭山丘陵のチカタの森や雑魚入にあるトロのトラスト地の説明を受ける。その後「北野一般廃棄物最終処分場跡」に建設された「北野メガソーラー」について、市役所環境クリーン部の谷口さんに説明をし

てもらう。「マチごとエコタウン所沢構想」の一環により20年間で約1億3千万円の黒字を見込んでいるとの話である。昼食後、北野天神の満開の枝垂れ梅を楽しむ。

* 3月19日 第3回狭山三十三観音

霊場巡り

今回は17番 霊性庵から22番 吉祥院まで、6カ寺の霊場巡りを行った。

・17番 霊性庵圓乗院から少し離れた場所に新築。本尊は、如意輪観音像を安置。

・18番 雲性寺 天王山雲性寺の境内、本堂の西に観音堂が建つ。この堂、旧本堂で観音堂に改めた。本尊は一尺二寸の十一面観音像。奈良の長谷寺の末寺で、境内には観賞用のボタンを多数植えている。

・19番 はやし堂 本尊は、如意輪観世音、行基作の坐像一尺余。

・20番 真福寺 本尊、正観世音並百体観音は弘法大師の作といわれる。

* 4月2日 第3回軽便鉄道「羽村／玉川線」

廃線跡を歩く

羽村市川崎西公園が軽便鉄道の始点。多摩川から採取した砂利は、通称ナベト

ロと呼ばれるトロッコに積み込まれ、多摩川に架けられた砂利運搬棧橋を渡り、第二水門付近に登る。軌条を走行して第三水門附近に運搬され、運搬用のインクラインにより、公園付近まで引き上げられる。

そこから、一般道路の廃線跡を歩くと、青梅線の線路に突き当たる。青梅線は明治27年すでに開通していて、軽便鉄道が越えるため高架橋を設置した。

飛行場のフェンス沿いを、江戸街道に出て武蔵村山の廃線跡を歩く、旧青梅街道の先は、ゴールの横田トンネルである。

* 4月16日 第3回鎌倉街道を歩く

前回最終地の中河原駅よりスタート。

本日の主な見学場所。

・関戸の古戦場跡と横溝八郎の墓 新田軍と北条軍の壮絶な戦闘があった地。

・観音寺と阿保入道の墓 このあたりは刑場跡とみられ供養の為の板碑が積み残されている。北条泰家を逃すため討ち死にした阿保入道親子の墓を民家の庭で見せて頂く。

・霞ヶ関南木戸柵跡

熊野神社の山道に「霞ヶ関南木戸跡」の標柱が立っている。鎌倉幕府が防衛上の要衝

として関所を設けた。

・小野神社 武蔵野国司として赴任した小野孝泰は、小野道風の霊を祀った。

小野路宿里山交流館で一休みし帰路に。

* 5月7日 第2回玉川上水を歩く

拝島駅を出て踏切を渡ると、左手に平和橋。川の反対側に「昭和の森ゴルフコース」の芝生の一端が見える。先に進み「立川分水口」と「砂川分水口」を見学した。上水にはところどころに分水があり、付近の村人の生活に役立ってきた。今は橋の数も今日のコースだけで33橋もある。五日市街道と合流する天王橋を過ぎ西武拝島線の砂川駅近くを流れている空堀川と交差している場所がある。ここは、空堀川の橋で上水にかかっている橋ではない、実は上水は川の下を交差して流れていて、伏越と呼ばれてサイフォンの原理を応用、再改修された場所である。上水では、ポイント箇所、説明書きが掲げられている。

* 5月21日 第5回富士塚巡り

今回は、旧東海道道沿いの2か所を巡る。
・品川富士は、明治2年(1969)に造ら

れた後、大正11年(1922)第1京浜国道の建設のため一部が削られて石垣となってしまうが、江戸時代からの富士信仰の形をそのままに伝えている。

・羽田富士のある羽田神社は、羽田総鎮守、御祭神は「須佐之男命」と、「稲田姫命」の二柱。富士塚は、神社本殿の左側奥にある。築造は天保5年(1834)、塚としては古いほうである。富士塚にお参りした際、賽銭泥棒除けに警報が鳴るといので、鉄製の頑丈な賽銭箱をこつんと叩いてみたら、本当に警報が鳴ったので大慌てをした。

* 6月4日 松永安左衛門にふれる散策

平林寺は総門から、山門、仏殿が一望できる。この新緑の季節は見物客も少なく木漏れ日の中を歩くのもよいものである。

広大な境内林は国指定天然記念物で、総門・山門・仏殿・中門は県の有形文化財に指定されている。

一角には電力の鬼と呼ばれた松永安左衛門の墓碑が夫人と並んで建っている。その背後には小さな自然石の墓がひっそりある。これは遺志により葬儀、法要を一切執り行わなかったことの表れと思われる。

昼食後、新座駅前の川越街道を経て黄林閣到着。ここは実業家であり茶人としても名高い松永安左衛門の別荘で数々の茶会を催した場所でもある。

*** 6月28日 所沢郷土美術館を訪ねて**

壮大な長屋門をくぐり、敷石伝いに玄関へ、この建物は、嘉永6年から安政3年（1853～1856）に建てた医家の家である。ご尊父故平塚義角氏が、郷土所沢の芸術の振興と地域の文化の向上を願い、この建物を開放して始められ、その後現館長宗臣氏に引き継がれた。館内には、所沢ゆかりの芸術家や文人による、絵画、書、陶器などが陳列され、小説、エッセイ、詩集、句集なども展示されている。

所沢の歴史についての講話は、館長ご自身で作成された年表に沿ってお話しされた。この年表は、後期石器時代から昭和にいたるまで、身近な神社仏閣を例にとり、創建時の時代背景など史実に対するユニークな見方も披露された。

*** 7月2日 狭山碾茶工房「明日香」を**

訪ねる

狭山碾茶工房見学を行った。奥富事務長から狭山碾茶にまつわる講話を伺った。

碾茶とは、抹茶の原料になる茶葉のこと。蒸した後、揉まずにそのまま乾燥し、茎や葉脈などを除いた後、細片が「碾茶」となる。挽臼で粉碎するお茶であることから「てん茶」と呼ばれる。

小野田工場長の碾茶製造工程の案内。覆下茶園から摘み取られた生葉を蒸気で蒸し酸化を止める「碾茶」は、揉むことはせずに、風で生葉を吹き上げながら冷却し、高温で茶葉を乾燥させる。

これで「荒碾茶」が出来上がる。「荒碾茶」から茎や葉脈を取り除き、石臼で挽きやすい大きさに揃えて「碾茶」が出来上がる。

*** 8月6日 渡辺隆喜先生を囲む座談会**

今回の座談会は「幕末外交史の諸問題」特に日英外交史（その中心人物アーネスト・サトウ）を中心とする明治維新史の検討そして世界史と日本の関係、強いては所沢を外からみるスタンスともいえるべき渡辺先生の講義である。

①幕末維新史年表では伊藤博文ほかの留学生が開国論者に傾倒していく過程やフラ

ンス公使ロッシュの着任、以降、イギリスパークス公使との抗争が外交史的には重要と示された。

②サトウと「英国策論」では、サトウはの中で、幕府を見限り、雄藩連合に政権を移す方向の主張をした。その他、戊辰戦争と国家構想では7つ国家構想が挙げられ、それぞれが歴史のどの局面に該当するのか構造的に示された。

*** 10月15日 東秩父村和紙の里を**

バスで訪ねる

東秩父村の和紙の里で手漉き和紙の体験と慈光寺をバスで訪ねた。

慈光寺では住職による寺の由来と国宝である法華経一品経・阿弥陀経・般若心経などの説明のあと宝物殿にある文化財を見学。創建は奈良時代で、鎌倉時代には源頼朝を始め多くの武将などの寄進を受けた。東秩父村和紙の里は世界遺産登録後、小中学校の学習の一環で来場者が多くなったとのこと。職員の指導のもと、紙の原料液を漉き上げたという木枠に入れタテヨコに揺らし紙すきの体験をした。今日一日世界に誇る日本の文化・歴史を堪能した。

***11月5日 第3回玉川上水を歩く**

スタート地点の「桜橋」の玉川上水は兩岸に歩道があるが最初は右岸の五日市街道沿いを歩いた。間もなく「八左衛門橋」。さらに歩くと「喜平橋」。玉川上水には「平右衛門橋」「万助橋」「長兵衛橋」など人名の付く橋が沢山ある。先に進むと、「独歩橋」その名の通り「国木田独歩」にちなむ橋で、一つ下流の「桜橋」のたもとには「国木田独歩文学碑」が建っている。『今より三年前の夏のことであった。自分は或る友と市中の寓居を出て三崎町の停車場から境まで乗り、くく』と「武蔵野」の一節が刻まれている。三鷹駅の奥まった囲いの中に「独歩詩碑」が建っている。碑面には武者小路実篤の筆により『山林に自由存す』と刻まれ、独歩のレリーフがつけられている。

***11月18日 第4回鎌倉街道を歩く**

前回の終着地五反田停留場から出発した。七国山に向かう。七国山の鎌倉街道は、ほぼ古い街道に近い状態で整備されている。山中に町田市の指定遺跡となっている通称鎌倉井戸がある。この井戸は新田義貞が

鎌倉攻めの軍を進める途中ここに井戸を掘り、水を軍馬に与えたと伝えられている。食後、少し寄り道して宏善寺へ。この寺は日蓮上人が佐渡に流される途中、この堂に休息したので、それ以後、日蓮宗に改宗。再び府中町田線に戻り菅原神社へ。古くより原町田の町田天満宮・南大谷の天神社とともに町田三天神として、周辺の多くの人々から崇敬されている。

***12月3日 第4回狭山三十三観音**

霊場巡り

箱根ヶ崎行きのバスにて。
・23番 慈眼寺 狭山丘陵の南面の傾斜地には墓地が整然と並んでいる。
・24番 禅昌寺 道中、人が歩いている姿は見られず大変静かな地域である。
・25番 福正禅寺 山門は威風堂々として鎌倉建長寺の山門を思い出す。宗派は臨済宗、建長寺派。墓地の片隅には奈良県興福寺、五重之塔の縮尺、七分の一のミニ五重之塔があり、南側は富士山一望の絶好の見晴台となっている。

***12月17日 平成27年総会**

来期代表に大山豊さん、副代表、小川雅愛さん幹事6名を選任、会員37名

◆平成28年（2016年）

***1月7日 もちもち里芋だんご入り**

けんちん汁と七草粥を食しむ
七草粥は予算の関係で講師の小林ヒデ子先生に調理して頂き味わう。

所沢名産の里芋を一手間かけて里芋だんご入りけんちん汁にする。又茹でまんじゅうは何回やっても生地を均等にするのが難しく大騒ぎをしながら完成させる。調理を楽しんだ後はお楽しみのランチタイム、美味しく頂き皆さんご家庭にお土産とする。

***1月21日 所沢名物焼き団子食い歩き**

所沢名物焼き団子は、所沢の郷土料理①焼きだんご②手打ちうどん③ゆでまんじゅう④とつちやなげ、の一つで。手打ちうどんの食い歩きは無理でも焼きだんごはできると、厳冬の時期であるが実施した。

所沢の焼きだんごは、近隣の農家が自家用として栽培した陸稲を、石臼で粗挽きした米粉で団子を焼き、醤油をつけて出した。

これが齒ごたえや甘味を醸し出して美味となり「所沢の味」となった。所沢の焼きだんごは今日までこの伝統を守り、10数軒の焼きだんご屋がある。今日は、内、6軒の焼きだんご屋の食べ歩きをした。

そして、団子の試食では、それぞれの味わいがあり、各人の好みで評価は分かれた。

* 2月4日 22期生所沢地域史

グループワーク発表

所沢の教育史と寺子屋と文化人に学ぶ

1・庶民教育の発展背景 幕末期には所沢地域で養蚕、木綿織物、製茶などが発達し、金銭収入も増加して教養の習得の必要性が高まってきた。

2・所沢地域の寺子屋から学校へ 澤田泉山が多くの子を教育した。特に女子が多いことが注目される。

3・学制以降の北広堂 新政府は「学問は身を立てるもとである」と説き国民を平等に小学校で学ばせる原則を打ち出した。

4・北広堂で学んだ著名人 衆議院議長になった粕谷義三。織物買継商の向山小平次の子息、など。

発表者の粕谷さんが所沢生まれの所沢育

ち、祖母の話で所沢の風景が想像できた。

* 2月13日「江戸期の所沢市域の領主と支配」

講師木村立彦先生

徳川家康が新たな領主として関東に入国。家康が最初に着手したのが領内の支配体制の整備であり、更に家臣団の地行割りで、財政的基礎となる直轄地の設定であった。

所沢市域の領主支配は旗本領と幕府領が入り込む形態をとっていた(相給村)。領主支配高は、正保(1644-48)約6,400石、幕末期(1868頃)約12,300石になった、これは幕府等の新田開発によるものが大きい。

近世初期の旗本は知行地とのかかわりが深く、所沢には江戸時代在住した旗本のお墓がある。探訪しては如何。

* 3月3日「足でさがす歴史」

石造物からわかること

所沢の石造物の調査は、五冊の調査報告書にまとめられている。1万5千枚近い記録写真が掲載されていて、まさしく「足で探す歴史」で、膨大な調査報告から、わかつてことが今回の講座のテーマである。

パワーポイントを使つての講義で、西新井熊野神社の「バーチャル調査」の手法を伝授いただいた。

現地地驚かされたのは、調査時と現状が一変していたことであった。境内の石造物からいくつかがわかった。社殿建造五周年記念の献灯から、新社殿が昭和41年4月に建造されたこと、など。

20基の石造物を確認し、所沢図書館本館で「所沢市石造物調査報告書3」記載の熊野神社20数基の石造物と照合してみた。

* 3月17日 国立ハンセン病資料館&多磨全生園見学

清瀬駅から約2kmで多磨全生園がある。国立ハンセン病資料館で、映画「ひいらぎの向こう側に」を鑑賞。概要を学んだ後、館内で展示物を見学。その後、広大な園内を散策。ハンセン病は日本にも古くからあり、国が行った強制隔離政策により多くの患者は色々な形で人権侵害を受け、差別されてきた。

私たちは子供の頃から「らい病」は怖い伝染病で鼻が落ちてしまう、感染したら生涯この隔離施設から外に出られないと教え

られていた。正に冒頭の映画「ひいらぎの向こう側に」の題名に象徴されていた。広い園内を散策しながら、国家・国民の誤解・偏見による長い差別の歴史と患者の今なお続く苦難の生涯に胸を痛めずにはいられなかった。

*** 4月21日 第5回鎌倉街道を歩く**

歴史街道歩きの楽しみは、建造物と沿道の風物である。この日の行程は、小田急線町田駅から瀬谷駅まで主な見学場所は、
・曹洞宗境国山定方寺、慶長15年(1610)に竹峰了願和尚の開創。
・八王子街道添いの観音寺、大和市の重要文化財の薬師如来像が安置されている。
・下鶴間の「ふるさと館」、鎌倉街道上道と大山街道が交差する場所で、矢倉沢往還の沿道に建っていた商家を復元したもの。
・瀬谷銀行跡、明治40年(1907)に創業され、地域金融の中心であった。
・曹洞宗瀬谷山徳善寺、弘治元年(1555)の創建で、開山は玄室泰存。

*** 5月19日 初夏のトトロの森を歩く**

コース 小手指駅発宮寺西行バス→荻原

下車→緑の森博物館→糍谷八幡湿地→比良の丘→早稲田大学学生食堂→葛籠入の森・トトロのトラスト地→クロスケの家。

荻原にて下車、「緑の森博物館」への道案内が要所々々に立てられ道に迷うことなく行きつくことが出来る。博物館では職員の方に概要の説明をしていただいた。今日は森の一部分しか体験できない。まず、糍谷八幡湿地を通る。林を抜けたところで道はおまん坂と合流、このおまん坂には悲しい「嫁・姑」の物語が残されている。ここを横切って比良の丘へ、ウズミ桜が中央に丘を守るように立っている。

早稲田の学食で昼食。食後はトトロのトラスト地を経てクロスケの家に到着。製茶の機械を見学させていただいた。

*** 5月21日 高麗郡建郡1300年に**

高麗神社

本日は、ところざわ倶楽部の各サークルから総勢39名の参加者があった。

「建郡1300年の歴史」の講演では解りやすい説明に感心。概要は高麗神社の御祭神高麗王若光は、高句麗からの渡来人で、霊亀2年(716)武蔵国に高麗郡が置か

れ若光は高い技術でこの地を開拓した。

初期の渡来人は1799人と云われている。その遺徳を偲び造られたのが高麗神社で、代々若光の子孫が宮司を務めている。

現宮司の高麗文康氏は多方面で活躍していて、講演などのテーマは「高麗郡建郡1300年事業とは」「古代東アジアの国際交流」「高句麗の歴史」「高麗郡の歴史」「高麗神社の由来」「高句麗からの渡来人の歴史と足跡」などである。

*** 6月2日 所沢の鉄道遺跡探訪**

今回は2年前、「所沢の鉄道119年―12の停車場物語―」の講座で取り上げた、所沢地区に残された鉄道遺跡を探訪した。狭山線西武球場前駅では多摩湖・狭山湖周辺に5つの駅を開設した駅の一つであることを説明。最初は現在の駅から多摩湖寄りに開設した村山公園駅、次に下山口駅寄りの上山口停車場跡地、西所沢駅前には西所沢駅開設の経緯を記した碑がある。

その他、川越鉄道開設の事務所になっていた求友館、国の登録有形文化財に指定されている旭橋、所澤御幸町駅など、所沢駅舎2階にあるトコニワは、線路を

見渡せる展望場所となっている。

* 6月16日 第6回富士塚巡り

今回4か所の富士塚を巡ることにした。

・上落合富士。月見岡八幡神社境内にある上落合富士は、享和1年(1801)に築造。溶岩製で高さ4m。

・新宿富士。花園神社境内にある新宿富士は、昭和3年(1928)に築造。昭和42年(1967)現在地に移築。高さ1・5mで溶岩製。

・東大久保富士。西向天神社境内にある東大久保富士は、天保13年(1842)に築造。溶岩製で高さ約2m。自然の大地を利用している。関東大震災後に改修再築した。

・西大久保富士。稲荷鬼王神社の狭い境内にある。昭和5年(1930)築造。溶岩製で高さ約2m。

* 7月7日 般若心経を読み解く

お寺で唱えている「般若心経」少しでも理解出来たらと、ところざわ倶楽部会員の高垣氏に講師をお願いして学習した。

仏教とは？を求め、中国や釈迦誕生の地ネパール・世界三大仏教遺跡のカンボジ

ア・ミャンマーを訪ねてみたがミャンマーは仏教の教えが一番残っていて、托鉢する僧侶に住民は畏敬の念を抱いているとのこと。生きているうちにたくさん功德するところが来世は良いところに行ける教えが基にあり、寺院等は信心深い住民たちのお布施からすべて賄われていると教えていただき、興味深く聞くことが出来た。

最後に、般若心経は自分で理解し自分で感じる事が必要とのことで写経を体験した。

* 8月4日 渡辺隆喜先生を囲む座談会

今年は幕末動乱期の越後長岡藩とその命運を左右した筆頭家老河井継之助の対応などを歴史小説「峠」を題材に、様々な統計資料も参照し、「人間とはなにか」、「長岡を主題としつつ戦後の歴史学の立場に立って戊辰戦争を描くとうなるのか」などについてご教示いただいた。

この講座に先立って渡辺先生は舞台となった長岡市の講演会で話された実績があり、その時の反響や現地の人々の感情や思いを伝えられたほか、河井継之助記念館の展示物、ガトリング砲、長岡藩の旗など資料を示されたので、臨場感をもって拝聴するこ

とができた。

講座の後は、先生を囲んで「天狗」での暑氣払いとなった。

* 9月1日 第7回富士塚巡り

今回は、清瀬市指定無形民俗文化財「火の花祭り」を見学した。

午後9時の着火を前に白装束の先達が熊避けの鈴を鳴らし山頂で、祈りを捧げお神酒を交わして下山、麦藁の束の上に松明で着火、「お焚き上げ」である。先達は竹製の大幣束を振り、参拝者のお祓いを始めた。鈴の音とともにクライマックスを迎えて鎮火した。迫力と熱さには驚いた。

残った灰を畑に撒くと豊作に、門口に置くと魔除けになると云われているので、バケツやフライパンに入れて持って帰る参拝者が大勢いた。

* 10月6日 第4回玉川上水を歩く

玉川上水は次の3区間に分けられる、

1. 上流部、原水導水路区間(約12km)
2. 中流部、清流復活区間(約18km)
3. 下流部、排水路区間(約13km)

今回の歩きは、下流部そのものの歩きで、

どのような変化のあるルートでしょうか？
前回歩いた浅間橋跡から歩き始める、開口して流れていた上水は、ここで暗渠となり神田川に放水される。甲州街道を2 kmほど歩いたところに分岐する緑道がある。これが昭和41年までここにあった玉川上水跡で、地下には水道用導水管が入っているそうだ。いよいよ、新宿駅南口である。玉川上水のゴール、四谷大木戸に建立された水道碑記がある。

*** 11月10日 第5回狭山三十三観音**

霊場巡り

芸術高校前下車、これより徒歩で巡る。
・29番 西勝院 一説には聖武天皇が全国に建立を命じた国分寺の一つではないかともいわれている。

・28番 西久保観世音 神亀5年(728)行基が全国行脚の途中、堂を開いたのが始りとされる。

・26番 山際観音堂 現在の観音堂は昭和45年に寄付を募り建立されたものである。

・27番 寿昌寺 境内には1730年に建立された、高さ120 cmの石造閻魔大王坐像がある。

裾野の近くまで白く見える富士山に送られバスにて入間駅へ。行程は9.3 kmであった。

*** 11月12日 特別講座「狭山丘陵の**

成り立ちと地質」について学ぶ

今回は、狭山丘陵の「成り立ちと地質の分析」を所沢高校の正田先生にお願いして学んだ。本講座に関心のあるところざわ倶楽部の「葵の会」「地域の自然を考える会」のほか、地質学の専門家、所沢高校の地学の女子生徒が参加する多彩なメンバーとなった。正田先生の用意したテキスト「武蔵野台地に浮かぶ『緑の島』狭山丘陵の成り立ちと地質」が配布され、いざ出発！途中、狭山丘陵の土台となる芋窪礫層の小さな露頭を観察。狭山丘陵の崖では多摩ローム層を観察。地層の断面図を見ると、多摩ローム層は芋窪礫層の上の層になっていて、狭山丘陵の成り立ちが少しずつ分かってきた。所沢高校の地学教室で、関東ローム層に含まれる鉱物粒子の顕微鏡観察をした。アツという間を過ごし、初体験に満足し地学教室での作業を終了した。

*** 11月17日 第6回鎌倉街道を歩く**

今回は前回のゴール瀬谷駅前よりゆめが丘駅前まで約8.6 kmを歩く行程である。

鎌倉街道は、横浜市と神奈川県との境界を流れる境川に沿う形で南下している。

しばらく歩き、西福寺へ山号を猿王山といい真言宗豊山派という。

鎌倉街道と中原街道が交差するところに日蓮宗白東山宗川寺がある。境内には、横浜市の名木に指定されている銀杏の大きな参道の両側に立っている。この銀杏は雄樹、雌樹であるため「夫婦銀杏」として縁結び、安全祈願の信仰を集めている。昼食後は柳明神社に立ち寄る。神社裏の分岐点の右手が日蓮宗本山の法華山本興寺。この寺の参道を歩く姿が、広場12月号の100号の表紙写真にふさわしいと投稿した。

*** 12月4日 熊野神社と能面美術館の見学**

熊野神社のしめ縄のいわれは昔、境内のご神木に白蛇がすみ、参拝の人や境内で遊ぶ子供がこれを見ると、原因不明の高熱や病に罹るため、毎年新しく作り替え、災いのないようお願いしたところ現れなくなったという言い伝えがある。

現在は「しめ縄保存会」の氏子有志が大

蛇を作り、鳥居に巻き付けている。

能面美術館では整然と並んだ面を見学。館長で能面師福山元誠氏の話を聞く。能面は600年もの長い年月をかけて出来上がってきた造形で、個人が勝手に動かすことは出来ない。日本特有のワビとか、サビ、禅味などの感覚を形であらわすのは一朝一夕にできるものではないと話された。

***12月8日 キューピー五霞工場見学と**

古河探訪(バスの旅)

キューピー五霞工場見学。到着後、製造工程のビデオ鑑賞、製造ラインの見学。ボトルにマヨネーズを充填しキャップをしめるライン不良がないか厳重なチェック体制が見られる。圧巻は1分間に600個の卵を割る割卵機による作業。

次は、お待ちかねの試食タイム。様々なマヨネーズやドレッシングを選び、サラダバーを楽しんだ。

次に北関東の小京都・古河市を探訪するボランティアガイドの荒井さんの案内で永井路子旧宅に向かう。直木賞を受賞した歴史小説家・永井路子の生家である店蔵を復元したものである。

次に、篆刻美術館の見学。日本で初めての篆刻専門の美術館として開館し、国の登録文化財に登録された。

***12月15日 平成28年総会 来期会員36名**

◆平成29年(2017年)

***1月10日 里芋おはぎとけんちん汁**

昨年5月20日の朝日新聞に食文化研究家魚柄仁之助さんの「庶民の知恵で満腹感」と題して「里芋おはぎ」の作り方が掲載されていた。所沢名産の里芋を使用するというので、今年の地産地消の料理教室は、小林ヒデ子先生にお願し「里芋おはぎ」に決まった。先生も「里芋おはぎ」は初めてということ。「新聞に載っている作り方通りに皆さんと一緒に考えながら作ってみましょう」ということになった。

各グループは、あんで包んだおはぎ、黄な粉をまぶしたおはぎ、あんを入れ黄な粉でまぶしたおはぎ、を手際よく楽しみながら作った。テーブルにはたくさんさんの料理が並び賑やかな昼食となった。

***1月19日 所沢の鉄道遺産「川越鉄道」**

西武鉄道「軽便鉄道・羽村～山口線」

今回の行事は、所沢の鉄道シリーズ第2回(第5回までのフィールドワークを映像としてまとめたもので。特に軽便鉄道編では、在りし日の軽便鉄道を紹介した。

1・所沢の鉄道遺産「川越鉄道～西武鉄道」編、川越鉄道敷設(明治28年)から今日まで122年経過した。所沢に関わる鉄道遺産として取り上げた場所等。

2・所沢の鉄道遺産「軽便鉄道・羽村～山口線」編、昭和3年、山口貯水池、堰堤で大量に必要な砂利運搬のため村山貯水池、建設の際敷設したトロツコ軌道(約7.8km)を再利用して、羽村～山口貯水池の延長12.6kmの貨物鉄道を敷設した。これが軽便鉄道「羽村～山口線」であった。

***2月2日 絵馬とその歴史**

昨今、神社、寺院にはところ狭しと「絵馬」が飾られていて、「大学合格」「家内安全」等様々な願掛けが見受けられる。

今回「絵馬とその歴史」について学んだ。講師は「いきが大学」で「絵馬」を学んだ、会員の原さんをお願いした。

「絵馬」とは神社、寺院等に祈願または感

謝のため馬等の絵を描いて奉納した絵のことで、「絵馬」は形状の違いから、吊懸形式の「小絵馬」と篇額形式の「大絵馬」とに分けられる。「小絵馬」は素朴で民芸的で大きさも30cm以下のもの。「大絵馬」は専門の絵師が描き、大きさは30cm以上とされている。江戸時代になると、画題は武者絵や参詣図、歌舞伎の名場面など、絵画的に優れたものが残されている。

*** 2月25日「武州世直し一揆」講義**

江戸末期の慶応2年（1866）6月、上名栗村を中心に発生した「武州世直し一揆」から150年、その時代の農民の生活と一揆の背景を、木村立彦氏に講師をお願いして学んだ。尚、日高市の郷土史愛好家の「武州世直し一揆の会」の皆様にもご参加いただいた。

慶応2年（1866）6月13日から19日までの1週間にわたり、武州15郡、上州2郡において、のべ10万人の農民が同時多発的に蜂起した一揆で、農民（農兵）による農民（一揆勢）の鎮圧がこの一揆の特徴であった。多くの犠牲や損害を出しながら民衆が精いっぱい抵抗を表したこの一揆は、

幕藩体制や社会に大きな影響を与えた。

*** 3月2日「貨幣博物館&日本銀行」見学**

私たちの生活に欠かせないお金について、貨幣博物館と日本銀行を見学した。

最初は、貨幣博物館。入口でビデオの説明があり貨幣についての予備知識を得て、展示室へ、古代の銭貨である富本銭や和同開珎、江戸時代の元文小判等、古代から現代までのお金の歴史について学んだ。

次は日本銀行の見学をする。受付で本人確認及び金属探知機による検査と携行品のX線検査を行い入館。次に職員の案内で重要文化財に指定されている本館や中庭の見学をした。明治時代の重厚な建物と日本銀行の役割についての見学、説明には学ぶことが多かった。

*** 3月18日 出前講座「カドカワプロジェクト**

構想」を聴く

所沢市経営企画課主幹兼総合戦略推進室長の市川勝也氏を招いて、目下進行中の表題の計画（COOL JAPAN FOREST）の出前講座を受けた。

このプロジェクトは東所沢駅近くの市有

地（旧所沢浄化センター跡地）の有効活用を図る市当局と、書籍出版を本業とするKADOKAWAとの間の、利用計画など。その中核は「ところざわサクラタウン」（仮称）であり、①約900人が働く 書籍製造・物流オフィス ②角川ロックミュージアムとしての図書館（角川所蔵書籍、ラノベ・マンガ図書館）・近代美術館・博物館の三大融合施設 ③イベントホール、ホテル、レストランなどがある「産官共同による地域づくり」を標榜しており、市民には町内会で説明会を行う考えのようである。

*** 4月6日 第6回狭山三十三観音**

霊場巡り

本日は第6回目の巡礼で、結願である。
・30番 松林寺 本尊は千手観音、吟國（承応2年1653寂）が開山、創建したといわれている。

・31番 聴松軒 本尊は馬頭観音で、金仙寺の住職が創建したといわれている。

・32番 慈眼庵 本尊は聖観音で、納経等は33番妙善院が管理している。

・33番 妙善院 光輪山三ヶ島寺と号し、本尊は白衣観音、行基の作といわれる。

本日で狭山三十三観音霊場巡りは結願を迎えた。有志による「やるき茶屋」での懇親会を持った。

*** 4月20日 第7回鎌倉街道を歩く**

武蔵野線、南武線、小田急線、相鉄線と乗り継いで「ゆめが丘駅」に着く。歩き始めて富士塚公園に、源頼朝の窮地を救った飯田五郎家義の館跡である、暫らく歩くと東泉寺にこの寺は神仏習合の名残りか同じ境内に琴平神社が建立されている。俣野五郎景久の墓碑のある観音堂を経て福泉寺に着く。境内は手入れをされた藤が見事で山吹も満開である。境川西岸を歩き龍長院へ、曹洞宗の古刹で1490年頃の創建と伝えられており牡丹が咲き始めている。ここ相模野は古い農家が多く生垣や広い庭も良く手入れされており、疲れの見える一行も暫し佇み目の保養をするのも楽しい。藤沢市の柄沢橋交差点、本日の目的地である。

次回の予定等を確認してから、時宗総本山の遊行寺に参る。関東大学箱根駅伝で有名な東海道の遊行寺坂に面している。境内は広く宝物館もあり見どころも多い。本日の行程は14kmであった。

*** 5月18日 三ヶ島葎子の足跡を訪ねる**

〔資料室&歌碑〕

所沢ゆかりの歌人 三ヶ島葎子が没してから、90年の歳月を刻んでいる。昨年が生誕130年の節目の年であったので、三ヶ島葎子を偲ぶ「吾木香忌」など、より一層活発に催されてきている。短く、必ずしも恵まれたとは言えない40年の生涯に6000首を超える短歌を創作し、歌人仲間から絶賛される優れた作品も数多く残されている。特別に市民ボランティアの解説をお願いしたところ、快くご協力をいただいた。

三ヶ島葎子の生い立ちから生涯を全うするまでの波乱に満ちた経歴や業績のビデオを鑑賞した。「できるだけ多くの歌をよむこと、健康であること……」を紙片にしたため、座右の銘のように掲げてあるのが印象に残った。

*** 5月21日「滝の城まつり」見学**

本丸跡に設けられたステージでは、若者たちが音楽を熱演し、詩吟に合わせて剣舞も披露された。「戦国合戦絵巻」が始まり、法螺貝の音や、武将の立会など迫力あふれる戦いが繰り広げられた。

滝の城は関東管領上杉氏の重臣、大石氏が15世紀後半に築いたという説が有力で。

後北条氏の支配下となり、支配地拡大のための敵対勢力に対する警戒拠点となった。さらに交通の要衝地点として、河越や岩付などへの伝達拠点としても重要な役割を担っていた。しかし、豊臣秀吉による小田原攻めによって落城し、その後は廃城となった。廃城後も堀や土塁などの遺構がよく残されていたため、大正14年埼玉県史跡として文化財に指定され、現在も発掘調査が行われている。

*** 6月1日「所沢の町場と飛行場」講座**

所澤の歴史の伝承人「ひげじい」こと三上博史さんに講師をお願いした。

明治44年4月に日本初の飛行場が所澤に開設され、アンリ・ファルマン機による初飛行が成功したことで、その後に「所澤陸軍航空学校」が創設された。昭和に入り、東京陸軍少年飛行学校や陸軍航空技術学校などが設立され、全国から飛行技術を学ぶ多くの若者や軍人が所沢に住むようになり町の活況を呼んだ。

講座資料のあとがきに所沢の町の発展の歴史の中に「所沢飛行場」が重要な部分を占めたことが挙げられている。

*** 7月25日「ほうろく灸」体験**

土用の丑の日、法華寺でおこなわれた「ほうろく灸祈祷法要」に参列した。

住職と副住職のお二人が太鼓を打ち鳴らしながら、ご本尊日蓮上人尊定の大曼荼羅、および守り本尊の鬼子母神様に対し読経、拝礼。私たちも、一人ずつ前に出て合掌拝した。

次に、心身を守る護符が配られ各自頭の上に、そのうえに大きなもぐさを三個ずつ載せた皿のような「ほうろく」を乗せ、火がつけれ、もぐさが燃えて頭のうえがだんだん熱くなり、体中が暑くなって、汗がじつとりと沁み出す、これによって、心身の邪気が払われ、健康な体になるとのこと。そして、参列者の一家繁栄と健康長寿を祈願して下さり法要は終了した。

*** 8月3日 渡辺隆喜先生を囲む座談会**

神々とヤマト国家

今回の講座は千年以上さかのぼる古代史

で、キーワードは「和」で、これが最も大事なポイントとのことである。「倭」「大倭」から「大和」へ、「和」の思想がどこから生まれ、どのように変わっていったか「和」の思想は古代で中断するが、明治維新、そして現代日本の「平和」の「和」へと続く。日本の古代史研究は、「和」の思想が時代の進展とともに「上下的な統治」の思想にどのような変化があったのか、このところを解明し、解答を与えてこそ価値があると思われ述べられた。同時に、ヤマト国家の形成過程や古代史のナゾをレジュメと最新の学術研究の成果を含む添付資料を使つての講義は、古代史の前半部が丸ごとわかったような実感を賜った。

*** 9月7日 世界文化遺産富士山**

探訪バス旅

車中で富士山文化遺産案内。①世界遺産とは②世界遺産条約誕生のきっかけ③世界遺産登録までの流れ④現在日本の世界遺産⑤「富士山」はなぜ「自然遺産」ではないの？⑥富士山文化遺産のあらまし、の解説が終るころ御師 旧戸川家住宅に到着した。御師とは、信仰のために登山する人たち

を家に泊めたり、富士山信仰の教えを広めることをしている人達である。

北口本宮富士浅間神社は富士山の構成資産となつている八つの浅間神社のひとつである。当神社は、特別名勝施設・史跡・重要文化財となつている。登山する人は、この神社にお参りして、神社の後ろにある登山門から富士吉田登山道を歩いて山頂を目指した。それにしても観光客のおよそ半数が、中国系と思われる家族連れであることに驚かされた。

*** 9月21日 入間の織物工場と周辺の**

文化財を訪ねる

所沢織物の伝統を継ぐ産地はどこに？かつて隆盛であった地場産業所沢織物の生産を入間市の、歴史と伝統のある(有)細芳織物工場見学の機会をえた。そこで工場見学とともに近辺で著名な文化財建造物をも見学の活動に加えることにして。入間市駅に集合し、駅へ織物工場・文化財をぐるり周回するコースを設定した。

・旧 石川組製糸西洋館(河原町) 国指定の文化財建造物。

・(有)細芳織物工場(春日町工場見学)

・彰義隊遭難者碑付地蔵(黒須町)真言宗蓮花院の境内にある市指定文化財など。

古い物や文化財の保護について、学ぶべき点は多かったと思う。

***10月5日 歴史講座「中世高麗氏の動向」**

神社内を各自散策のあと、第60代高麗文康宮司の説明を受けた。

説明によると第30代行仙の時代鎌倉幕府は新田義貞軍に攻められ滅亡する。鎌倉幕府に味方した高麗一族では正慶2年(1333)三郎行持、四郎行勝の30代行仙の弟二人が東勝寺にて討死をする。その後の南北朝時代には南朝に味方したが文和3年(1354)軍に利なく、行高の弟左衛門介高廣、兵庫介則長の2人が討ち死する。ここで、第32代行高は、家の存続を第一とし投降する。その後、高麗家は行高の遺言「死に臨みて遺言我が家は修験なり、以後子孫代々何事があるといえども、必ず武士の行いなすなかれ。軍はいたさざるものなり。堅く戒め率す」を守り修験道に努め、家系の存続を第一としたのである。

***10月26日 第8回鎌倉街道を歩く**

古道歩きも4年目、今日は藤沢駅を出発して鶴岡八幡宮に向かう。暫く歩くと、推古3年(595)開山と伝えられる本蓮寺に着く。本蓮寺は源頼朝の深い帰依により繁栄し「頼朝駒止めの松」と伝えられる松の切株が残されている。食後、近くの満福寺に参拝。満福寺は源義経が兄頼朝への嘆願文「腰越状」を認めた場所として有名で義経や弁慶ゆかりの遺物が残されている。

所沢→武蔵嵐山まで約40km、所沢→鶴岡八幡宮まで約80km、計120km、を4年12回に分けて歩いてきた一同、本当に感無量のものがあった。その後は所沢まで戻りお約束の打ち上げを徳樹庵で行い4年間を振り返り大いに盛り上がった。

***11月2日 所沢市立埋蔵文化財調査**

センター訪問

「所沢市立埋蔵文化財調査センター」を訪問した。目的は「発掘された埋蔵文化財を通じ所沢の歴史を知ること」及び「板碑の拓本をとること」である。

土器の発明は当時の人の生活に大変大きな影響を与えたと思われる。それは食生活の多様性をもたらしたことと思われる。

もう一つの出土品、矢尻。材料は「黒曜石」が使われていて、所沢では産出されない。実は、房総半島を伝わってきたということで、古代人の交流の広さが感じられる。さて、拓本の手順は、板碑に画仙紙を乗せ、水を含ませ、ある程度乾いたところで墨の付いたタンポで叩くと文字が浮かび上がってきて完成。

***11月24日 石坂産業見学**

くかくあるべし産業廃棄物処理工場

三芳町、川越市、所沢市にまたがる敷地の同社は、産業廃棄物の中間処理業者、特に家屋解体で発生する廃材を、火力や薬剤によらず、風力、重力、磁力による選別を行っており、省資源と環境に配慮した処理法に徹している会社である。いち早くISO(国際規格)を導入し、3S(整理、整頓、清掃)と3R(減少、再循環、再利用)を貫徹している。視点は常に環境保持、改善にあり、広大な敷地内の「クヌギの森」を「あるべき里山の姿」として保全する一方、果樹園、収穫体験農場、ミツバチ養蜂所、アスレチックのほか、クヌギの森を一周するミニSL機関車はソーラーシステムのバ

ツテリーで走らせるといふ環境対策への徹底ぶりであった。

＊12月7日「所沢の河川・水路」の利用

歴史的背景を聴く

所沢を流れる代表的な河川・水路として、柳瀬川、東川、不老川、砂川堀などがある。平時はいずれも水量は少ないが、一旦台風などの大雨やゲリラ豪雨等が発生すると、一気に水位の上昇がみられる。このような所沢の河川状況について、市役所建設部河川課にお願いして出前講座で学んだ。

- ・柳瀬川 古くから人々の暮らしが営まれ縄文時代の住居跡など遺跡が豊富である。
- ・東川 平成4年の集中豪雨による浸水被害発生をきっかけに平成7年度から改修が図られ平成24年度に完成した。

所沢市が管理する河川・水路において水辺環境の維持・保全を図るボランティア制度がある。

＊12月21日 平成29年総会

来期代表小川雅愛さん、副代表安田好子さん、幹事7名選任、会員36名

◆平成30年（2018年）

＊1月19日 調理実習（きりたんぼ鍋）

新年会を兼ねた本年度、第1回の活動は（きりたんぼ鍋）の調理実習。本年も小林先生指導のもと作業を開始。メニューは冬の伝統的な鍋料理で、食材の多くは地元産を使い、その面では地産地消の実践だった。男性も女性も、ごぼうはピーラーを使ったほうがやり易いといいながら、肉を切ったり野菜を切ったり和気藹々と進行。

きりたんぼづくりは手作業順に行えば家庭でも実践できるので、参考になった。おいしい鍋を囲みながら新春恒例の挨拶と各自の紹介、今年の抱負等を披露して、お腹も心も一杯になって終会となった。

＊2月1日 埼玉県立歴史と民俗の博物館

見学と大宮氷川神社参拝

本年は、日本が近代国家としての出発点となった明治維新から、150年である。

そうした中、県立博物館で「明治天皇と氷川神社」特別展があることを知り、今年度の活動として見学をすることになった。

特別展は4部構成 明治天皇の東幸、氷川神社の行幸・御親祭、ほか

明治天皇の東幸では戊辰戦争のさなかでもあり、警護は厳重、随行員は3千人で。東海道の行列絵が描かれているが、さながら大行列列のようであった。しかし、当時の絵師は実際の行列は見ていないので想像画であるという。

氷川神社は明治4年、武蔵国一宮、官幣大社となった。参道の途中に大きな明治天皇行幸の絵巻の絵看板があった。

＊2月24日「幕末期の所沢商人」講座

江戸時代の所沢は、江戸と青梅・秩父を結ぶ交通の要衝にあつて宿継ぎ場あった。また同時に三・八の市が立ち活況を呈して多くの商人がいた。穀屋、炭屋、肥料屋、油屋、醤油屋、砂糖屋、足袋屋、糸屋・・・等々。今回は幕末期にどのような商人が活躍していたのか、木村立彦氏に講師をお願いして学んだ。江戸時代の所沢は、交通の要衝、物流の拠点であったことから、市が開かれ商取引が活発化して、多くの商人が活躍していた時代である。

木村立彦講師の歴史講座は江戸時代を中心に今回、5回目でサークルの主要な講座の一つになっている。

*** 3月1日 ところざわ地域史グループ**

ワーク及び語り部 発表会

平成25年(2013)に当サークルでの活動・行事として始まったグループワーク発表会は、今回の所沢地域史グループの、テーマ「幕末の所沢地域と渋沢一族」の発表会で5度目の開催となった。

昨年の市民大学グループワーク発表会と同じように、所沢地域史グループの11名が参加して、大変に盛り上がりのある発表会を開催することができた。

第二部では第18期のグループワーク発表から今日につながったと強調された池田衛氏の所沢駅に絞ってのテーマで、川越鉄道の開通から武蔵野鉄道・現在の西武鉄道と時代の変遷に伴う役割の変化等を大正・昭和年代の多くの写真と資料を駆使して披露していただいた。

*** 3月15日 航空発祥の地・**

所沢航空記念公園めぐり

今回初めて、所沢観光コンシェルジュによる「航空発祥の地・所沢航空記念公園めぐり」を行った。所沢観光コンシェルジュ

は、本市の文化・歴史を後世に語り継ぐことや、市内外から訪れる方への案内を担当。案内は今回のコースと「所沢文化と歴史の中心・旧町めぐり」を行っている。観光ボランティアの山本さんは、春到来の航空記念公園の自然。小野さんは航空発祥の地に関わる歴史の解説をしていただいた。航空記念公園に関わる自然と歴史を同時進行的に体験するぜいたくな時間を過ごした。

*** 4月5日 第1回東川ウォーキング**

第1回目の行事として、東川ウォーキングが行われた。総勢23名の会員が参加し和気あいあいとした歩きと、歴史を楽しんだ。

東川は三ヶ島の源流部から市内の中央部を西から東に流れ、坂の下で柳瀬川に合流する全長12、6kmの荒川水系の一級河川である。今回は源流部から御幸町の旭橋まで7kmを散策した。「東川の源流は2ヶ所あると言われている。1ヶ所は狭山湖から、もう1ヶ所は今回確認したマンホールのある場所」。今回の目的地の旭橋まで川の長さは7kmだが歩行距離は1割程度長く感じられた。所要時間は休憩を除き3時間30分快い爽快感があった。

*** 4月19日 新河岸川の2つの河岸場**

付近の歴史散歩

当初は富士見市の水子貝塚・縄文竪穴住居と難波田城跡の2か所の史跡めぐりを構想していた。そうした中、2月24日(土)歴史講座「幕末期の所沢商人」木村立彦氏を受講し、当時、所沢と江戸が引又(志木市)と水子(富士見市)の2つの河岸場を通してかなり密接に結びつけられていたことを講義と地図「江戸時代の主要道」(木村氏作製)で知り、活動の柱に加えることにした。

今回は、東武東上線志木駅からふじみ野駅まで、短時間に4つの史跡を歩くハードなスケジュールであったが、道と川、台地と低地の人々のくらしと古代・中世・近世の歴史を満喫できたのではないかと思う。

*** 5月10日 所沢文化と歴史の**

中心・旧町めぐり

古くは所沢の町・旧町と言えば、所沢銀座通りを指している。今は高層のマンションが立ち並び、かつての所沢の商業の中心地としての賑わいは、所沢駅前とその地位

を譲っている。区画整理事業もあり今後、益々発展して町も様変わりしていくと思われる。今回はそのような所沢の町の歴史を野老澤町造商店の名物スタッフである（通称：髭爺（ひげじい）こと三上博史氏にお願いしてご案内いただいた。

所沢の歴史が凝縮された旧町めぐりも、所沢市内旧町の商家の5代目で子供の頃から町を知りつくしている生粋の所沢っ子の三上さんのガイドにより、隅々まで文化と歴史を堪能した。

*** 5月24日 明治大学博物館見学と**

付近の散策

今回が2回目で、第1回は平成23年に行った。そのためか、今回の参加者は8名と少なかったが、前回よりも見学場所を増やし充実した企画になった。最初は明治大学博物館。博物館はもとと商品博物館、刑事博物館、考古学博物館に分かれていた施設を統合し、明治大学の大学史の資料も加えて現在の博物館となった。

昼食のあとは、ニコライ堂、湯島聖堂、神田明神、東京都水道歴史館、等を見学。充実した都内歴史散歩であった。

*** 6月21日 「所沢宿の歴史」講座**

講師は三上博史氏におねがいする。江戸期から明治期にかけて、旧鎌倉街道と東川の交差するあたりを「河原宿」、その南を「本宿」と呼び、江戸道西から「上宿・本町」、「中宿・元町・寿町」、「下宿・御幸町」、薬王寺付近を「浦宿・有楽町」、現在の御幸町、東町付近を「植の宿」と呼んでいた。江戸時代に江戸道に誕生した所沢宿が、どのようにして今日の素晴らしい住生活の場に変身してきたのでしょうか。江戸時代、明治時代、大正時代、昭和時代、平成時代と変遷してきた経緯を学んだ。

*** 7月5日 「所沢遺跡発掘の歩み」講座**

今回はさながら移動博物館の雰囲気包まれての講演であった。講師の中島岐視生氏（埋蔵文化財センター元所長）が写真、土器（レプリカではない）を持ってきてくださり、受講生を3万年前へと誘った。

市内には埋蔵文化財包蔵地166カ所が周知され、77カ所401調査区で発掘調査が行われている。その中で、主なものは、
・昭和20年（1945）北秋津横穴墓の

発見（古墳時代終末期～奈良時代初期）

・昭和41・48年（1966・73）砂川遺跡（旧石器時代）

・昭和49年（1974）東の上遺跡第1次（縄文中期・奈良・平安時代）市単独の発掘
・平成元年（1989）東の上遺跡東山道武蔵路の発見・・・等々

*** 7月19日 「明治維新」と「廃仏毀釈」講座**

廃仏毀釈。この言葉は中学生か高校生の歴史の時間に聞いたことと思う。明治時代の初期に起こった仏教を排除する活動だったと記憶している。

しかし、なぜその様な活動が起こったのか、その結果はどうだったのか、今の生活に何か影響はあったのか。詳しいことはほとんど知らない。今回の講座で、神道と仏教のかかわりの歴史、つまり相互認識、相互協力そして神道が仏教を排除するまでの歴史を学んだ。

「ぶっちゃけ雑学 神仏習合～神仏分離令～廃仏毀釈」 講師 谷 和夫氏

*** 8月2日 渡辺隆喜先生を囲む座談会**

当日の活動は3部構成になった。

・第1部、映画「赤貧洗うがごとき 田中正造と野に叫ぶ人々」のDVD鑑賞、

・第2部、渡辺隆喜先生を囲む座談会、

講義は、田中正造の青少年時代から県会議員時代、衆議院議員時代、天皇直訴の試み、谷中村事件など 72才でなくなるまでの彼の行動、言動を歴史との関わり合いを明らかにしてすすめられた。また鑑賞した映画についても、引用したり、時には注文や感想を加えたりしながら・・・。

・第3部、暑氣払い、渡辺隆喜先生も出席されて、いろいろ質問も受けられ、まさに「暑氣払い」となった。

*** 9月6日 公開講座新田義貞から37代目**

による「太平記ゆかりの地・處澤」

表題の講座を講師 新田隆昭氏、映像中村眞一氏、により進行された。

豊富な資料から厳選されたスライドを駆使して新田義貞とその子三兄弟に関しての深い造詣になる講演は、所沢の地名、新光寺、実蔵院、薬王寺、金乗院などの古刹の名がポンポン飛び出し、時に、詩吟を混ぜての熱演でみなさんの目はスクリーンに釘づけであった。旧鎌倉街道の上道の結節点

であり東西への主要街道にもつながる「われらが處澤」はこの時期、馬蹄の響きが絶えなかったに違いない。

みなさまは今回の「太平記ゆかりの地・處澤」の講座をどのように感じられたでしょうか。

*** 9月20日 第2回東川ウォーキング**

今回は2回目の東川ウォーキングで前回を引継ぎ、柳瀬川合流地点までの9kmのコース。

所沢の旧市街を流れる東川は町の歴史や発展との関わりをより強く感じる道筋である。また、昨年12月の出前講座「所沢の河川の利用・歴史的背景を聴く」で学んだ東川の河川管理の様子を現場で確かめる良い機会ともなった。

コースの3分の1はウォーキングナビの推奨コースで、起伏の少ない川沿いの道を歩いた。柳瀬川との合流地点は柳瀬川の川幅は広く、一級河川の名に恥じない立派な川で、東川が柳瀬川にそそぐ様子はつきり見ることが出来た。

*** 10月4日 歴史を学ぶ・湖畔を翹う**

〈小手指ヶ原古戦場と狭山湖コース〉

所沢市ではとことこ歩こう！ところざわウォーキングナビを①西エリア②中央エリア③東エリア④北エリアの4分冊の歩きを10数年前から提供している。

各エリア2コースで、全8コースある。

今回は①西エリアの小手指ヶ原古戦場と狭山湖コース7.2kmを歩いた。

新田義貞の鎌倉攻めゆかりの古戦場と点在する史跡を訪ね、茶畑が広がるのどかな中を狭山湖畔の美しい景観を満喫できるコースであった。そこでの見学場所は、一度は訪ねられた次の場所（埋蔵文化財調査センター、小手指ヶ原古戦場、白旗塚、北野天神社、メガソーラー所沢（北野）等。

*** 10月13日 岩崎の獅子舞見学会**

山口の瑞岩寺境内で行われた「岩崎の獅子舞」見学会には野老澤の歴史をたのしむ会及び葵の会、アジア研究会の会員、会員の知人を含めて25名の参加があった。

境内では地域近隣や市全域から2百数十名の皆様が見守る中、獅子舞が披露された。岩崎の獅子舞は慶長19年（1614）大坂夏の陣の年に始まり、今日までで404年

も伝承されてきたものと知らされて、改めて岩崎地区の獅子舞保存会の方々の心意気に感心させられた。

昭和44年に所沢市の無形民俗文化財に指定され、毎年10月の第2土曜日に披露されている。

*** 11月1日 出前講座「所沢都市計画と**

Cool Japan Forest」

所沢市は今後少子高齢化を迎え20年後には3人に一人が高齢者になる。そこで所沢市は「所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を掲げ①生産年齢人口の確保②急激な人口減少の緩和、を目指し、今後5年間は「魅力」と「元気」に重点を置いて土台作りを進める。その重点プロジェクトの一つが「COOL JAPAN FOREST」構想である。構想のきっかけは「旧所沢浄化センター跡地」にKADOKAWAが進出決定をしてくれたことであった。

講座終了後には多くの質問があり、大変厳しい意見が多かったように思った。今後とも一市民として注視していきたい。

*** 11月7日「武州世直し一揆」の現場を歩く**

幕末の慶応二年に開港され、以降庶民は物価騰貴に苦しんだ。更に、慶応四年には天候不順で凶作となった。また、幕府が長州戦争を見込み米麦の買い占めを行い、米麦の値が高騰してしまった。大坂、兵庫では空前の打ちこわし、一揆が起り、江戸でも大規模な打ちこわしが起こった。このような社会情勢は、当然この名郷地区にも影響が有った。一揆勢は名主、大商人、穀屋に対して、山間村落への米穀流通・安売り・施米を求めたが、交渉は決裂し、たちまち4軒を打ちこわしてしまった。これが一揆の発端で、その後この所沢にも押し寄せてきた。講座のあと、私たちは「武州世直し一揆」にゆかりの場所を訪ねてみた。訪問場所、旧名栗村の「紋次郎墓」「豊五郎墓」「わらび入り」「正覚寺」「町田氏宅」、「檜渕諏訪神社」等

*** 11月15日紅葉を愛で歴史をたのしむ**

バス栃木の旅

バスの旅では初の試みとして行先に参加希望者のプレ募集の結果、蔵の町栃木と大平山への旅が決まった。栃木は下野国府へ向かう古代の東山道が町の南を貫き、戦国

期に皆川氏の城下町として基礎が作られた。江戸時代には日光東照宮の建立を契機に盛んとなる巴波川の舟運は江戸との交易による豪商や豪農を生み、河岸には多くの蔵が林立した。同時に日光例幣使街道の重要な宿場町でもあった。現在でもそうした二つ要素の史跡が保存され、小京都らしい風情の街並みとなっている。到着してすぐ巴波川の遊覧船を楽しんだ。

街中散策では豪商の店蔵見学、浮世絵師の絵画鑑賞、旧栃木県庁の遺構や石碑、当地生まれの山本有三の生家見学等々を行った。午後のコース大平山では紅葉を眺めつつ景勝地謙信平、天狗党の碑、大平山神社などを巡った。

*** 11月29日 初冬のトトロの森散策と**

みかん狩り

「トトロの森1号地」は1991年に取得。現在48号地までトラストされている。

この森は里山の景色が残っていて、多くの市民の散策地として親しまれ、美しい景色と、多くの動植物が息づいていた。

森の保全是市民のボランティアによるところが多いと思われた。その一方で資材置

き場や残土捨て場などの小規模開発が今も跡をたたない。私達市民の見回りも大切な務めと思った。次に芸術総合高校前のミカン畑で食べ放題のみかん狩りとなった。今年は風台風の影響で表面にキズがあるものが多いとのことであるが、みずみずしく甘く上出来と思われた。

*** 12月20日 平成30年総会**

来期役員幹事11名選任、会員41名

◆平成31年、令和元年（2019年）

*** 1月23日 調理実習飾り寿司（房総寿司）**

今年度1回目の活動は、2年越しで講師を探していた太巻き飾り寿司作り。

講師は22年前に房総寿司に出会ってから魅力にはまり、志木市を中心に普及活動をなさっているベテラン増田敦子氏、弘光しのぶ氏にお願いする。基本の梅の花の巻き方を教えていただいた。最初に巻き方の見本を示していただき、その手順で作業開始。巻き方のポイントは、すし飯はやさしくつぶさないように力を入れ過ぎないようにとの事。先生がデモで作ってくれた梅の花ずしのように全員きれいに巻けて感激で

あった。本日のランチメニューは各自が作った、太巻き寿司と、ほうれん草の胡麻和え、ほうれん草と蒲鉾の吸い物、など。

*** 2月7日 所沢の語り部講座「山口観音」**

講座は、まず山口観音の正式な呼称の説明から始まる。山号…吾庵山、院号…金乗院、寺号…放光寺。豊山派の寺で、総本山は長谷寺（奈良県）、東京の大本山は護国寺、その後、金乗院住職による講話と境内の案内があった。本堂内部の鳴き竜の体験を各人が行った。

次に「語り部」について、『昔から語り伝えられる昔話、民話、神話、歴史などを語り伝えている人を指している』とあり、内輪の語り部としてではなく、地域社会に所沢の歴史を語り伝える目論見が必要と考えられた。

*** 2月23日「新編武蔵風土記稿」に見る 所沢村**

江戸時代の所沢村はどんな村だったのでしよう？ 所沢の村況については、村役人である名主家の資料が残っていないためよくわかっていない。その代りに「武蔵野話」

「秩父順拝図絵」等々の地誌類が良く紹介されていて、その中の一つ江戸時代の文化・文政期幕府により編纂された『新編武蔵風土記稿』の「所沢村」の記載は、一つの基本情報となっている。

『新編武蔵風土記稿』の記載より 所沢村の範囲は、河越城より南に位置し古は野老沢と記載され、江戸より秩父郡への馬継ぎであると、宿との違いを述べている。

講師には今年度も木村立彦氏にお願いした。

*** 3月7日 最盛期の所沢飛行場**

外周を歩く

明治44年（1911）日本初の飛行場が開設された。当初は幅50m、長さ400mの滑走路であったが、その後随時拡張され最盛期は365.3haとなった。戦後米軍基地となったが、一部を残し返還されて、市民憩いの航空公園となり、「所沢航空発祥記念館」が設立された。

今回、最盛期の飛行場外周を歩いた。

まず、航空公園駅を出発、線路際を所沢方面に、そして、日本一長いケヤキ並木を歩き、東京航空交通管制部を左に見て、生涯学習推進センターにて、一休み。

その後、並木団地を通り過ぎて、飛行場の最北端と思われる場所に出て、かつて引き込み線があった場所を確認して、ゴールの航空公園駅へ、外周を一周した。

*** 3月28日 所沢の歴史グループワーク**

発表会&歴史勉強会

すでに市民大学発表会で公開された内容ではあるが、制限時間を設けず、取り組みや研究の成果を見てみたいということ、サークルとして新たな所沢市史修了の方々にパワーをいただき、学びたいというのがこの会の開催の目的の一つと感じている。

今回の発表はすでに観光マップや町歩き散策マップ・ガイドが発行されている中で、市内を大きく3地区（7フィールド）に分けその区域に存在する遺跡や古墳、歴史的建造物等を手分けして巡り、所沢の歴史を体感し、そのことを通じて再発見した魅力をおリジナルな散策マップとガイドを残すことを目標にした活動の成果で、何度、聞いても魅力のある発表であった。

尚、二部では映画「草の乱」をDVDで鑑賞した。

*** 4月4日 春色の狭山丘陵を歩く**

（菩提樹の一本桜を見る）

西武球場前駅から満開の駅周辺の染井吉野を眺めながら出発する。狭山湖畔霊園に向かう急坂を上り菩提樹方面の道標付近から山道に入る。この池を利用して「菩提樹田んぼの会」が復田した田圃で稲作に励んでいる。畦道を抜け山道を上ると目指す桜の古木が見えてきたが、残念ながら満開は過ぎ葉桜になりつつあった。この山桜は昨年の「太平記を学ぶ」講師の新田隆昭さんより新田義貞ゆかりの古木として紹介されたものである。

快晴と気温の上昇でカタクリが見事に咲いていた。カタクリは開花まで7、8年要するとの由、また気温と開花の関係など初めて聞く話は参考になった。

*** 4月18日 山口の「語り部」と「歴史散策」**

はじめに、今回の趣旨、行程などについて説明があった。

（語り部の部）

①山口小学校にまつわるお話、地元ならではの話を「紙芝居方式」にて語りがあった。

②山口城のお話、地元に存在した「城」の歴史についてのお話であった。

③本邦最大級と言われた寺子屋のお話
この寺子屋には遠くは新潟からも勉強する児童が集まったとの記録がある。

（歴史散策で主な見学地）

美蘭上八雲神社、北廣堂跡、中氷川神社、山口城跡↓来迎寺↓桜淵地蔵尊

*** 5月1日 多聞院・多福寺と三富新田**

― 温故知新の散策 ―

寅祭りで賑わう多聞院を訪れ。満開をやや過ぎた牡丹の花、くまがい草を愛で、厄除けの寅に祈願のあと、320年の昔から住民の信仰の拠りどころであった多福寺へ。閑静な木立の中、鐘楼、十六羅漢が安置されているという山門を仰いだ。

六間道（いも街道）沿いにある開拓名主の島田家を外観し、上富新田を散策した。風よけの茶樹で区画された一軒当たりの面積5町歩（675m×72mの短冊状）の畑は、大根、さつまいも、人参などの露地根菜生産で首都圏唯一の農業遺産認定地として知られて、一目でそれとわかる肥沃な土壌でその先には、腐葉土を産む貴重な平

地林が現存していた。

*** 5月19日 鉢形城歴史博物館・城址見学と**

寄居北条まつりをたのしむ

寄居北条まつりをたのしむ活動は、日本100名城の一つと言われる鉢形城の史跡・遺構を散策、鉢形城攻防合戦を彷彿させる北条まつり、を自分の眼で確かめたいという二つを狙いとした。ボランティアガイドによる、鉢形城の説明と、ビデオや展示物の見学等のあと、城址公園を歩いた。

鉢形城址は公園的景観だが戦国期は見通しのよい場所であったようだ。袴姿の主催者や来賓のあいさつのち、河原では戦闘が始まり。槍の戦い、大將同士の一騎打ちなど多彩な演出で、戦闘の際には本曲輪から花火、そして、河川敷には4、5門の大砲の砲撃、ほら貝などが鳴り響き戦国にタイムスリップしたような情景が見られた。

*** 6月6日 鎌倉街道 山口・小手指ルート**

(西コース)を歩く

今回は東村山駅を出発して、小手指道と呼ばれる鎌倉街道の枝道を歩き、狭山ヶ丘駅に到着する歩行距離約7kmのコース。

東村山駅前を右に進み、正福寺に立ち寄り、鎌倉円覚寺舍利殿と同様な建築様式美をもつ国宝の地蔵堂を見学した。正福寺の前の道を真つすぐ進み、狭山公園の中にひっそりと鎮座している多摩湖町の鎮守「氷川神社」に詣でる。神社の脇を通る細い道が旧鎌倉街道。見落としてしまうような道だが、いかにも遠い昔を思い起こさせるような古道である。昼食後は中氷川神社に参拝。神社の近くの鎌倉街道の古道の雰囲気を残す切通の急坂を歩く、暑さと食後の体にはこたえた。

*** 6月23日 所沢織物**

明治の所沢飛白と大正の湖月縮

講師、野老澤歴史の伝承人三上博史氏
幕末から明治時代にかけて、市の主要取引商品となったのが、緋木綿、絹綿交織の所沢織物であった。中でも、緋木綿の「所沢飛白」は東北・北陸地方を中心に需要が高まり、生産量も飛躍的に伸びて、その商標に「所沢飛白」を用いるようになった。しかし、一部の機屋では粗製乱造が行われ、信用を失墜、昭和初期には金融恐慌のあおりを受けて大暴落に陥った。

所沢飛白の衰退により、湖月縮、新湖月の台頭もあったが、所沢の縞屋は生産地への支配力を低下させ、所沢が集散地として存在する意味も失われた。

*** 7月1日 富士塚山開き見物**

荒幡富士・八国山周辺の史跡めぐり

荒幡村には、小字ごとに鎮守があり、村内の民心の統一が図れないと明治14年(1881)に三島神社・氷川神社・神明神社・松尾神社の4社を、村社の浅間神社に合祀して松尾神社の社地へ遷した。さらに村の和を増大させるため、明治17年(1884)から旧浅間神社の社地にあった富士山の村民共同による移築作業を始め、明治32年(1899)15年の歳月をかけて「荒幡の富士」は完成した。完成からは約120年の月日が経っている。

八国山はかつて、八つの国を臨むことが出来たことから八国山と名付けられたと言われている。当時は律令時代の官道「東山道武蔵路」が通っていたとされており、麓には「非田処跡」の碑がある。

*** 7月18日 埼玉の民俗文化―不思議・**

面白・楽しみ発見

民俗文化の持つ性格が、古代国家にみられる年中行事の歴史に与えたインパクトと同様、民衆の民俗文化が地域の歴史の流れをつくることも感じていた。

大館勝治先生の講義は、民俗文化とは何かというような難しい解釈の話からでなく、麦秋の季節にあたる今「蟬の季節・・・それぞれ蟬は地元名をもっていた」「カブトムシ・カメムシの所沢での地元名は？」蟬・カブトムシ・カメムシ等も所沢と県内を少し離れた地域だけでも呼び名は様々で面白く調べられる。地元に伝わる名前、言葉を調べるのは民俗の方言を調べる活動と相通じるものがある。こうした言葉を所沢のものとして残しておきたいと話された。

* 8月1日 渡辺隆喜先生を囲む座談会

攘夷と開国の間 近代エリートの形成

近代エリートとは明治10年までに国家諸分野の要職についた「近代日本の初期リーダー」で、幕末維新期の海外留学生と維新政府のエリート養成策によるものとがあり、嘉永6年(1853年)の開国以降の洋学輸入につながっている。江戸前期の洋学

蔑視から中期には外国に目を向け、やがて幕末期に蘭学から英仏独語の重視へと傾く。貢進生として国家的人材の育成を目的に各藩から優秀な若者を選抜して大学南校で学ばせて日本の近代化に尽くした。

講義終了後、講師の渡辺隆喜先生を交え、暑氣払いを楽しく実施した。

* 9月5日 歴史講座「神社・仏閣の

建築様式」

平成28年7月「名人・達人に聞く会」絵筆で巡る所沢の神社・仏閣」のテーマで講師を務めた、天野保治氏に今回の歴史講座「神社仏閣の建築様式」の講師をお願いして学んだ。

神社と仏閣の立面図と平面図及び所沢市内の地区別神社と仏閣のリストを資料として配布。市内の神社は50社、仏閣は47寺あり講師は全ての神社をスケッチしており今回は全作品を展示してくれた。講義はレジユメのスケッチ画や画像を駆使して解りやすい説明であった。

今後のサークル活動の参考となった。

* 9月19日 旧鎌倉街道東コース

(入間川一部堀兼ルート) 巡り

今回の東コースは東村山駅から八国山を回って、新所沢駅に至る約8kmを歩く。最初にこれから旧鎌倉街道を探訪する際の留意点の説明があった。

1・鎌倉道は御家人が「いざ鎌倉」のために直線的に整備された。逆に新田義貞の倒幕と次・三男が新田氏再興を執拗に図った道にもなった。

2・鎌倉時代当時の農民・商人などの庶民は草鞋をはいてどのような気持ちでこの鎌倉道を歩いていたか想像してみる。

3・鎌倉道を行き来していた当時の人たちは寺院や神社とどのようなかわりを持つて生きていたかを想像してみる。

そして、歴史ある東コースを歩いたが担当幹事の事前勉強ぶりに参加者大いに驚く。

* 10月3日 第1回野火止用水散策

野火止用水を小平監視所〜平林寺までの約20kmを3回で踏破する試みである。

今回は第1回目として、玉川上水駅〜久米川駅までの約7kmのコースを歩く。

江戸時代、幕藩体制が安定すると江戸の町は拡大し人口増加に伴い飲料水の供給が

深刻化した為、幕府老中で川越藩主松平伊豆守信綱によつて承応2年(1653)に玉川上水(約42km)が開削された。その功績により幕府は信綱に対して領内の飲料水・農業用水に困っていた野火止方面への玉川上水の分水を許可し、承応4年(1655)に開削されたのが野火止用水(約25km)であった。

***10月17日第16期所沢市史グループ**

ワーク発表会「所沢飛行場100年の歴史」

第16期所沢市史グループが10年前に、「所沢飛行場100年の歴史」のテーマをグループワークで発表したDVDを鑑賞することになった。今回で3回目となるが、当サークルが10周年を迎えたこと、新会員が大幅に増えたこと、当初のDVDの写真等を増やし大幅に修正したこと等で所沢飛行場の再認識を図った。

このようなグループ活動はサークル内の活動にも十分生かされると思われ、今後も継続していきたい。

***11月3日 中世毛呂氏史跡散策と**

出雲伊波比神社 やぶさめ祭り見学

やぶさめ祭り見学は5年前の2014年に一回実施していて二度目になるため、毛呂山町近辺の史跡散策を加えた。

毛呂氏、史跡・散策コース(主な見学場所)
1・妙玄寺 毛呂氏の供養塔、五輪の塔がある。毛呂顯繁の夫人が創建といわれる。
2・榎堂(甲子大黒天) 宿場(やぶさめ出陣場)
3・長栄寺(毛呂氏墓)。

やぶさめ祭りは(埼玉県指定無形民俗文化財)3月第2日曜日春やぶさめ、と本日11月3日の秋のやぶさめ、の年2回開かれる。ここのやぶさめは民俗やぶさめで、頼朝の御家人毛呂利光以来の武勇を彷彿させる。

***11月21日「維新の所沢を治めた葦山県・江川家」ーゆかりの伊豆の国市の史跡を巡るー**

明治2年から廃藩置県の明治4年まで所沢の大部分は伊豆葦山の代官江川太郎左衛門の管轄地であった。このことは明大渡辺隆喜先生の講座や木村立彦先生の講座で理解しており、伊豆の江川邸と世界遺産の葦山反射炉を巡るバス旅は一種のルーツ探しの旅であった。江川邸はまさに幕末を感じさせる遺産の宝庫。半島の付け根のここは

鎌倉く江戸の歴史が凝縮されていた。コースと見学場所①葦山反射炉②蛭が小島(源頼朝流刑地跡)・昼食(食事処代官屋敷)・③江川邸(江川家代々の代官所跡)④葦山城(北条早雲の居城)⑤三嶋大社(伊豆一の宮)⑥買い物(ジャンボひものセンター)。

***12月5日「松井の寺社を訪ねるコース」**

12月は当初「柳瀬川源流 根古屋城跡をめぐる」を予定していたが、根古屋城跡近辺は立ち入り禁止区域に指定されており、見学不可能であることが判明。このため過去の散策実績の少ない市内東エリアをコースに選択した。コースはところざわウォーキングナビ③東エリア「航空発祥の歴史と松井の神社を訪ねる」とした。

主な見学場所。☆長源寺 ☆安松神社 ☆東川桜並木 ☆牛沼神明社 ☆牛沼市民の森 ☆木村・徳田両中尉墜落地、など

***12月19日 2019年度定期総会&納会**

来期代表大舘徹さん、副代表大野孝さん幹事8名を選任、会員45名

・総会後、渡辺隆喜先生を囲んでの納会をぎょうざの満州で盛大に行った。

バスで巡る歴史旅

＊平成24年6月21日（2012年）

忍城跡、埼玉古墳公園を巡る



＊平成25年10月3日（2013年）

武蔵野三十三観音巡拝結願



＊平成26年12月18日（2014年）

「秩父事件の足跡」を巡る



＊平成27年10月15日（2015年）

東秩父村和紙の里を訪ねる



＊平成28年12月8日（2016年）

キューピー五霞工場見学と古河探訪



＊平成29年9月7日（2017年）

世界文化遺産富士山探訪





＊令和元年11月21日（2019年）
「維新の所沢を治めた蕪山県・江川家」



＊平成30年11月15日（2018年）
紅葉を愛で歴史をたのしむ栃木の旅



＊木村立彦先生講義風景



＊渡辺隆喜先生講義風景



＊ところざわ倶楽部文化祭



＊渡辺隆喜先生を囲んでの懇親会

編集後記

野老澤の歴史をたのしむ会のサークルが設立されてから10年を迎えた。この記念すべき年を迎えて、10年の活動の足跡を記録として残そうと幹事会で話し合い、記念誌を発刊することとなった。

しかし、何分にも不慣れなため、資料の確認から始まった。ところざわ倶楽部のHPの活動記録を精査すると、設立当初の記録が欠落していることが多数あることが分かった。

その記録は設立時から会の運営に携わってきた幹事により自分の覚書や写真、そして当時のメンバーから調査いただき、当初の記録はすべて復元することが出来た。

HPにある活動記録は内容を抜粋して、会員が読み直して当時の活動が懐かしく思い出せたらよしとした。

今回の10年史の作成は、ところざわ倶楽部のHPの記録が2015年以前のもものは削除するとの通知を知り非常にいい機会であると思われた。

編集の作業は、不慣れであったため幹事の皆様には大変な苦勞を掛けたことと思われる。10年の歩みを振り返るには、十分とは言えな

いかもしれないが、本誌を手に取り活動記録が、今後の参考になれば幸いである。

野老澤の歴史をたのしむ会が今後益々発展することを期待する。

最後に、本誌発刊にあたり、多大なるご協力をいただいた方々に厚く御礼申し上げて編集後記とさせていただきます。

野老澤の歴史をたのしむ会

10周年記念誌編集委員会

2020年6月11日

☆発刊にあたりご協力いただいた方々

(敬称略)

・ 寄稿 明治大学名誉教授渡辺隆喜

・ 表紙題字 曾部康子

・ 裏表紙イラスト 山本苗子

・ 写真提供 池田衛

・ 参考資料 ところざわ倶楽部HP

・ 編集 サークル幹事

・ 印刷 PRINT PORT



野老澤の歴史をたのしむ会10周年の歩み編集委員会

2020年7月1日発行